

- 委員男爵若王子文健 本案ニ依ル改正規定ノ施行期日ハ何時頃ナルカ
- 政府委員肥後八次 大正五年六七月頃ナリ
- 委員伯爵松平賴壽 第十條ヲ改正スル爲ニ他ノ法律ノ規定ト牴觸ヲ來スコトナキヤ
- 政府委員肥後八次 別ニ斯カル關係ヲ生セス
- 委員男爵若王子文健 有効期間ヲ證書發行ノ日ヨリ六十日ト爲スハ如何ナル根據ニ基クカ
- 政府委員肥後八次 六十日ヲ以テ十分ナリト想像セシニ由ル
- 委員男爵東郷安 郵便爲替證書ハ讓渡ヲ爲スモ差支ナキヤ若讓渡セラルルモノトスレハ有效期間ヲ六十日トセシ爲故障ヲ生スルコトナキヤ
- 政府委員肥後八次 郵便爲替證書ノ讓渡上何等ノ不都合ヲ生セス
- 委員長侯爵徳川囀順 質問盡キタルヲ認メ本案ヲ表決ニ付ス
- 委員可決 主ク文部 亦其外諸委員等ニ賛成セシキルコトハ口頭報告ニ依リテハ附録同
- 委員長侯爵徳川囀順 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス
- 散會 午前十一時十分
- (附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

郵便爲替法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年十二月十四日

右特別委員長

侯爵 徳川 囀順

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 侯爵 徳川 囀順印

副委員長 伯爵 松平 賴壽印

○委員大正四年十一月十四日議決
 委員長 寺島誠一郎
 副委員長 前田利定
 委員 寺島誠一郎 前田利定 北島齊孝 岡田良平 橋本圭三郎 木村誓太郎 廣瀬滿正 堀正輝
 大正四年十一月十四日議決
 委員長 寺島誠一郎
 副委員長 前田利定
 委員 寺島誠一郎 前田利定 北島齊孝 岡田良平 橋本圭三郎 木村誓太郎 廣瀬滿正 堀正輝

大正四年田租第一期分延納ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正四年十二月十三日議長ノ指名ヲ以テ大正四年田租第一期分延納ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

委員長 寺島誠一郎
 副委員長 前田利定
 委員 寺島誠一郎 前田利定 北島齊孝 岡田良平 橋本圭三郎 木村誓太郎 廣瀬滿正 堀正輝

○大正四年十二月十三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	子爵	前田	五利	定
副委員長	男爵	北島	齊	孝

會議

第一回 大正四年十二月十三日

出席委員

委員長	子爵	前田	利	定	委員	伯爵	寺島	誠	一郎
同		原	保	太郎	同	男爵	岡田	良	平
同		橋本	圭	三郎	同	子爵	木村	誓	太郎
同		廣瀨	滿	正	同	伯爵	堀	正	一

不出席政府委員

○大正四年十二月十三日開會ハ出席スル委員ハ大藏省參政官加藤政之助ニ關シテ

委員數

大藏省主稅局長

松本重威

大正四年開會午前十一時ニ開スル法律案特別委員會

○委員長子爵前田利定開會ヲ宣告ス工農米價暴落ニ際シテ農民ノ困窮ニ對シテ救濟ノ方策ヲ立ツルニ在リタルモ委員會ニ於テハ將來永遠ノ事ヲ議スルヨ

（參照）

大正四年田租第一期分延納ニ關スル法律案ハ前項延納ニ係ル收入ハ之ヲ大正四年度所屬トス

○地租條例第十二條第一項ノ規定ニ依ル田租第一期ハ大正四年分ニ限り大正五年六月十五日迄之ヲ延納スルコトヲ得

○前項延納ニ係ル收入ハ之ヲ大正四年度所屬トス

○委員子爵前田利定 本案ニ對スル政府委員ノ意見ヲ求ム

○政府委員加藤政之助 本案ハ米價調節委員會ノ決議ニ胚胎スルモノナリ近時米價暴落シ農民ハ

非常ノ窮境ニ陥リシヲ以テ之ヲ救濟スル爲ニ政府ハ米價調節委員會ヲ開設シタリ同會ノ目的ハ

永久ニ米價ノ調節ヲ爲スノ方策ヲ立ツルニ在リタルモ委員會ニ於テハ將來永遠ノ事ヲ議スルヨ

○リモ先ツ目下ノ農民ノ窮狀ヲ救フノ必要アリト爲シ數箇ノ方法ハ提出セラレタリ其ノ内田租ノ

延納ハ假令困難ナリトハ雖之ヲ爲シ能ハサルニアラス而シテ緊急ノ救濟方法トシテハ最效果大

ナルヘシト大藏省當局ハ認メシニ依リ本案ヲ提出シタルナリ本案ノ要旨ハ田租第一期分ノ納入

期ハ十二月十六日ヨリ翌年一月十五日迄ナルカ今大正四年分ニ限り大正五年六月十五日迄之ヲ

延期シ得ルコトト爲スニ在リ然レトモ規定ニ從ヒ第一期分ノ納入期ニ納稅セムトスル者アラハ之ヲ妨ケサルハ勿論ナリ尙此ノ田租第一期分納稅額ハ千百十八萬圓ニシテ之カ繰延ノ爲補充ニ必要ナル財源ハ軍需品賣却代金及大藏省證券ニ仰クコトト爲スヘシ

○委員木村誓太郎 田租第一期分ノ納期ヲ六月十五日迄延期スル程ナラハ一步ヲ進メテ六月三十日迄ト爲サハ如何其ノ間僅ニ十五日ノ差ニアラスヤ

○政府委員加藤政之助 六月三十日ハ前年度所屬歲入歳出ノ出納ノ最終期日ナルヲ以テ田租第一期分延納期日ヲ六月十五日迄トシ其ノ間十五日ノ餘裕ヲ置クコトトセリ

○委員橋本圭三郎 農家ニ於テ肥料買入ノ爲資金ヲ要スル時期ハ何時頃ナルカ

○政府委員加藤政之助 稻ニ在リテハ其ノ植付時、麥ニ在リテハ其ノ蒔付時ヨリ成熟期迄ノ間ナリ

○委員橋本圭三郎 田租第四期分ノ納期ハ五月一日ヨリ三十一日迄ナルカ五月末ニ納ムル者多カルヘシサレハ其ノ後僅ニ十五日以内ニ延期ニ係ル第一期分ヲ納ムルコトトナリテハ殆同時ニ二期分ヲ納ムル如キ結果トナリ農民ハ却テ困難ヲ感スルコトトナラサルカ

○政府委員加藤政之助 貴説ノ如ク二期分ノ地租ヲ殆同時ニ相續イテ納付セサルヘカラサルコト

○トナルモ前述シタル如ク六月三十日ハ國庫出納ノ最終ナルヲ以テ已ムヲ得サルナリ

○委員橋本圭三郎 本問題ハ重大ナルモノナレハ慎重ニ考慮セサルヘカラス即チ目下ノ經濟狀態

ハ非常ナル變態ニシテ與國ニ軍需品ヲ供給スル者ノ如キハ大ナル利益ヲ得テ暴キ巨萬ノ富ヲ累

ネタル者ヲ生シタルカ如キモ横濱神戸等ニ於テスラ尙多數ノ失業者ヲ生シタリ本員ノ郷里ナル

新潟縣下ノ如キハ軍需品ノ供給ヲ營ム者一人モナシ加之米價ノ暴落ハ農民ヲ窮境ニ陥レ從テ社

會一般ニ不景氣ヲ極ムルノ現狀ナリ、サレハ田租第一期分ノ延納ヲ行フノミニテハ來年ノ農作

ノ爲資金ヲ調達シ得テ肥料ヲ買入レ以テ十分ノ收穫ヲ擧ゲ得ヘキカ甚疑問ナリ本年迄ハ幸ニシ

テ前年ノ施肥残り居リテ豫想外ノ收穫アリタルモ來年ハ果シテ如何此ノ點ニ付政府ハ如何ナル

考ヲ有スルカ又不景氣ハ都鄙一般ニ通スト雖殊ニ農民ノ窮狀ハ慘憺タルモノアリ此ノ際政府ハ

大奮發ヲ以テ適當ナル方法ヲ採リ以テ農民ヲ助ケ國家ノ基礎ヲ強固ニスルコトヲ考慮セサルカ

○政府委員加藤政之助 政府ハ新潟縣下ノ事情ヲモ知ラサルニ非ス又米價下落ノ爲農民ノ苦シム

コトヲモ承知セリサレハコソ能フヘキ限リ農民ノ困難ヲ救助セムト思ヒ取敢ヘス本案ヲ提出シ

タルナレ尙他ニ一層良キ救濟方法モアルヘシト思フモ此ノ田租納期繰下ノミニテモ幾分ノ救濟

トナルヘシト信ス

- 委員廣瀬滿正 田租第一期分ノ納期ヲ繰延ハストキハ差當リ納稅者ニハ一月ニ於テ多少ノ便宜ヲ與フルナルヘケムモ第四期分納期ノ末日タル五月三十一日ト第一期分納期ノ末日タル六月十五日トハ甚シク近接ス殊ニ時恰麥ノ施肥期ニ際スレハ農民ハ却テ困難ヲ感スヘシ加之地租ヲ納付スルニ當リテハ農民ハ其ノ持米ヲ賣拂フヲ例トスルニ若殆同時ニ二期分ノ稅金ヲ調達セサルヘカラサルコトトナラハ勢ヒ投賣ヲ爲ササルヘカラサルニ至ルヘシサレハ本案ノ結果却テ米價ノ下落ヲ來スノ虞ナキカ又既ニ今日ニ於テハ第一期分ノ納稅ニ付テハ例年ノ如ク多少準備シアルヘシ然ルニ一時ノ延納ヲ許スカ爲却テ米價ヲ亂調ナラシムルノ虞ナキカ如何
- 政府委員加藤政之助 當局者ニ於テモ亦田租第四期分ノ納期ト第一期分ノ延納期トカ近接スルコトヲ認ム併ナカラ十二月末ハ如何ナル家ニテモ最多ク資金ヲ要スル時ナリ故ニ五六月ノ交納稅相踵クノ苦痛ハ十二月ニ納ムルノ困難ニ比シテ輕易ナルヘシト思フ
- 委員岡田良平 此ノ案ヲ實施スルニハ法律ヲ公布ト同時ニ何等カノ訓令ヲ添ヘテ發スルカ
- 政府委員加藤政之助 此ノ法律ヲ公布スル際ニハ田租第一期分ノ納入期ハ六月十五日迄ニ延期セラレタルコトヲ普ク知ラシムルノ方法ヲ採ルヘシ
- 委員岡田良平 納稅告知書ハ如何ナル形式ニ改ムルカ

- 政府委員加藤政之助 納稅告知書ノ形式ヲ變更スルコト能ハサルモ本法ノ趣旨ハ之ヲ弘ク地方ノ收稅官吏等ニ傳達シ遺漏ナカラシムヘシ
- 委員岡田良平 納稅告知書ニ延納ヲ許可セラルヘキ旨ヲ記入シテハ如何
- 政府委員加藤政之助 要スルニ遺漏ナキヤウ取計フヘシ
- 委員原保太郎 本年凶作ニ遇ヒタル地方ニ對シテハ如何ナル手段ヲ講スルヤ
- 政府委員松本重威 凶作ニ遇ヒタル地方トハ岡山縣下其ノ他ノ地方ヲ指サレタルモノト認ム此ノ地方ニ對シテハ明治三十四年法律第二十七號水害地方田畑地租免除ノ規定ニ基キ現狀ヲ調査セシメタレハ地租ヲ免除スルノ考ナリ
- 委員子爵前田利定 本員ハ姑ク農民ノ利害ノ方面ヨリ質疑ヲ爲スコトヲ止メ國家財政ノ側ヨリ見テ問ハムトス本案ノ規定ニ依リ繰延ヘタル稅金ノ收入ハ四年度ノ會計ニ屬スヘシ然ラハ各兩期分ヲ接近シテ納メシムル爲ニ大正五年度ノ納稅額ニ減少ヲ來スノ虞ナキカ即大正五年度ニ於テハ比較的多數ノ租稅滯納者ヲ出スコトトナラサルカ
- 政府委員加藤政之助 農民ハ困難シ居ルニハ相違ナキモ目下ノ所別ニ滯納者カ増加セリトモ認ムル能ハス又五月六月ニ相踵イテ田租ヲ徵收スルトモ左程多クノ滯納者ヲ出スコトトハナラサ

○委員子爵前田利定 此ノ際田租第一期分ノ延納ヲ爲ササルモノト假定シ從來ノ如ク納稅セシムルト本案ノ如ク延期ヲ許ストハ納稅額ノ總計ニ於テ何レカ多額ヲ舉クルヲ得ヘキカ換言スレハ本案ノ規定ハ農民ノ側ヨリ觀察スレハ比較的ニ困難ヲ感セサルヘシト思ハルルカ

○政府委員加藤政之助 納稅額ノ總計ニ於テハ二者格別ノ差異ナカルヘシト思ハルルカ

○委員岡田良平 新聞紙ノ報スル所ハ或ハ信スルニ足ラサルヘケムモ政府ハ米價調節ノ爲ニ買上ケタル米ヲ災害地方ニ於ケル罹災民救助ノ名義ニテ貸出シタリト聞ク果シテ然リトスレハ米價ニ影響ヲ來シ其ノ下落ハ免レサルヘシ如何

○政府委員加藤政之助 災害地ノ地方長官ヨリ斯カル希望ヲ通シタルコトアリシト雖若今日之ヲ貸出サハ米價調節ノ爲ニ計畫シタル事ハ徒勞ニ終ルヘシト信ス故ニ之ヲ貸出スコトハ爲ササリ

○委員岡田良平 田租延納ノ制ハ米價調節ノ爲ニハ效果極メテ微弱ナリト信ス如何

○委員加藤政之助 差當リ米價調節ノ上適當ノ方法ナキヲ以テ比較的有効ナルヘシト思フモノヲ行ハムトスルノミ

○委員岡田良平 米價ノ調節ニ關シテハ當局者ハ單ニ斯カル方策ノミヲ以テ足レリトセス更ニ妙案ヲ發見セラレムコトヲ希望ス

○政府委員加藤政之助 其ノ方案ニ關シテ妙案アラハ幸ニ示サレムコトヲ望ム

○委員橋本圭三郎 今日迄ノ狀況ニ依レハ國稅ニ付テハ滯納者ナシト謂フ果シテ然ラハ無理ニモ國稅ヲ納ムル結果自ラ市町村稅ヲ滯納スルニ至ル者ハナキヤ此ノ點ニ關シ大藏省ハ取調書ヲ有セサルカ

○政府委員加藤政之助 最近ノ調書ヲ有セス然レトモ聞ク所ニ依レハ近年市町村稅滯納者ハ著シク増加セサルカ如シ

○委員橋本圭三郎 此ノ種ノ調査ハ必要ナリト思フカ故ニ政府ニ於テ取調ヘラレタシ又田租第一期分ノ延納ヲ許スモ財政ノ關係ニ於テハ近時武器ノ賣却代金多額ニ達セルト大藏省證券ノ發行額ニ於テ五千萬圓ヲ超過セサルヲ得ヘシトノコトナルカ大藏省ニ於テ直ニ農民ノ窮狀ニ同情セラルルナラハ此ノ際千百萬圓ノ歲入ヲ大正四年度ヨリ削取ルモ可ナラスヤ或ハ又大奮發ヲ以テ更ニ七月カ八月カ若ハ十二月頃迄之カ納稅ヲ延期シ能ハサルカ

○政府委員加藤政之助 軍需品賣却ノ豫約高ハ大正四年度及同五年度ニハ多キモ同三年度ニ收納

○セシモノハ少シ又大藏省證券ノ發行モ總額五千萬圓ノ範圍内ニテハ未左程十分ナル遺繰ヲ爲ス能ハス

○委員岡田良平 低利資金ノ融通ニ付テハ米價調節委員會ニ於テモ之ヲ希望スルノ決議ヲ爲シタルカ如シ政府ハ之ヲ實行スルヤ如何

○政府委員加藤政之助 現狀ニ於テハ低利資金ノ貸付ヲ受クル所ノ機關不備ナルヲ以テ之カ實施ニ付テハ甚困難ヲ感ス

○委員岡田良平 現今ニテハ低利資金ヲ借受クル適當ノ機關ナシ爲ニ農業倉庫ノ設立ヲ要スト信ス然レトモ今日ニ於テモ千五百萬圓位ノ貸付ニハ別ニ困ルコトナカルヘシ如何、又借受クルニ適當ノ機關アリトセハ之ニ貸付クヘキ資金ヲ有スルヤ

○政府委員加藤政之助 實ハ資金モ十分ナラス

○委員岡田良平 然ラハ資金アラハ貸付クル考ナリヤ

○政府委員加藤政之助 資金アリ且貸出先カ確實ナラハ貸付クヘシ

○政府委員加藤政之助 目下ノ所鐵道公債ヲ募集シテ預金部ニ返却スルコトハ考ヘ居ラス

○委員岡田良平 鐵道公債ヲ募集シテ返却スル場合アラハ寧低利資金トシテ農民ニ貸付ケラレム

○政府委員加藤政之助 努力メテ貴需ニ應スヘシ

○委員廣瀨滿正 米價調節ハ必要ノコトト信スルモ政府ノ採ラルル方法ニハ贊成スルコトヲ得ス何トナレハ若本案カ實施セラルルニ至ラハ納稅者ハ田租第一期分ノ納稅線下ノ結果所持米ヲ賣

ル者少カルヘク從テ米價ハ騰貴スヘシ故ニ納稅者ハ所持米ヲ延納期ノ六月ニ於テ賣ルヨリモ寧一月ニ於テ賣ル方收入多カルヘシ又六月ニハ一時ニ賣却スル結果米價ノ下落ヲ來シ納稅者ハ意

外ノ損失ヲ蒙ルコトトナルヘケレハナリ政府委員ノ所見如何又米價調節ノ趣旨ヲ貫徹セシメムニハ内地産ノ米ハ内地ニテ食スルノ現狀ナレハ政府ノ所持米ハ之ヲ燒棄シテ減少セシムルニ非

サレハ到底下落セル米價ノ上騰ヲ望ムヘカラスサレト之ヲ燒棄スルカ如キハ之ヲ望ミ得ヘキニ非サルヲ以テ外國ニ輸出スルヲ以テ最策ノ得タルモノト信ス然ルニ今日ハ之ヲ運搬スル船舶ナシ故ニ政府自ラ船舶ヲ購入シテ以テ外國ニ輸出スルヤウ取計ハレタシ而シテ政府ハ三十餘萬石ノ米ヲ神戸ノ倉庫ニ買入レ置キ何時之ヲ賣却スルヤモ測ラレサルノ狀態ナレハ是レ却テ米價ノ

調節上有害ナリト信スサレハ之ヲ貯藏スルヨリモ外國ニ輸出スヘシ要スルニ政府ハ船舶ヲ購入若ハ借入レテ米ヲ外國ニ輸出スル様ニ取計ハレタシ聞ク所ニ依レハ今日ハ外國ニテモ米ヲ食用ニ供ストノコトナレハ必相當ノ購買者ヲ得ルコトト信ス

○委員橋本圭三郎 本案ハ衆議院ニテハ多數ヲ以テ可決シタル由ナルモ本院ニテハ十分ニ審査スル必要アルカ故ニ更ニ熟考ヲ遂クル爲本日ハ之ニテ散會セラレタシ

○政府委員加藤政之助 本案ノ審査ニ際シテハ衆議院ニ於テハ決シテ多數ヲ賴ミテ無理ニ決定シタルニハ非ス此ノ點ニ付誤解ナカラムコトヲ望ム

○委員岡田良平 田租第一期分ノ納期ハ十二月十六日ヨリ始マルモノナレハ本案ノ審査ノ時日切迫セルモノナルカ故ニ本日午後引續キ會議セラレテハ如何

○委員橋本圭三郎 一二日遅ルルモ強ヒテ差支ナカルヘシ

○委員長子爵前田利定 散會ヲ命ス

散會 午後零時五分

第二回 大正四年十二月十四日

出席委員

委員長 子爵前田利定 委員 橋本圭三郎 保太郎

○委員岡田良平 岡田良平 橋本圭三郎

○委員木村誓太郎 木村誓太郎 廣瀬正

○委員堀田正 堀田正

○出席政府委員 大藏省參政官 加藤政之助

○委員大藏省理財局長 神野勝之助

○委員大藏省主稅局長 松本重威

○委員農商務省農務局長 道家齊

○委員開會 午前十時七分

○委員長子爵前田利定 開會ヲ宣告ス

○政府委員加藤政之助 前會ニ要求アリタル大正四年度同五年度大藏省證券發行豫定調書ハ唯今

○配付セル通ナレハ御一覽ヲ請フ次ニ軍需品ノ賣却代價モ左程多數ニ上ラス調査未了ノ爲未詳細

ニ表示スルコト能ハサルモ支出額ヲ控除セハ月割額百萬圓ヨリ二百萬圓ノ間ナルヘシトノコト

ナリ

○委員橋本圭三郎 軍需品ノ賣却代價ノ收入ニ付テ取調ヲ請求シタルニ當局ハ何等表示スル所ナシ

○政府委員加藤政之助 軍需品賣却代價ニ付詳細ナル事ハ陸軍省當局者ニ就キ承合セラレタシ

○委員橋本圭三郎 公債償還ノ時期如何ハ金融上ニ影響スル所頗大ナリ政府ハ如何ナル時期ニ於テ幾何ヲ償還スル豫定ナリヤ

○政府委員加藤政之助 公債償還ノ時期及割合ノ豫定ハ未確定セス

○委員橋本圭三郎 加藤政府委員ノ説明ハ本員ヲシテ釋然タラシムルニ足ラス依テ他ノ政府委員ヨリ明答ヲ得ハ幸ナリ

○政府委員加藤政之助 公債償還ノ内容ヲ詳細ニ示サレムコトヲ要求セラルルナラハ後日表ヲ以テ明ニスヘシ又口頭ニテ可ナラハ主計局長ヲシテ答辯セシムヘシ目下ノ所ニテハ内國債ノ償還ハ之ヲ見合セテ主トシテ外國債ヲ償還スルノ考ナリ而シテ償還ハ隨時ニ行フモノトス

○委員廣瀬滿正 本員ハ政府カ米價調節ノ爲ニ盡力セラルルコトニ付深ク感謝スルモノナリ然レトモ調節方法ノ如何ニ依リテハ却テ米價ヲ攪亂スルノ虞アリト信ス本員ハ初メ米價調節ヲ實行

セラルルニ際シテハ政府ハ當業者學者等ノ意見ヲ徵セラルルコトト思ヒ居タリシニ其ノ事實ナ

ク調節ハ多少失敗ニ終リシ形蹟アリ其ノ後ニ至リ米價調査委員會ヲ設ケラレ廣ク意見ヲ徵セラ

レシニ此ノ委員會ニ於テ前ノ闕陥ヲ補フノ一端トシテ田租納期ノ繰延ヲ決議シタルカ如シ而シ

テ之ヲ今回政府案トシテ提出セラレシモ果シテ此ノ案ヲ以テ能ク調節ノ目的ヲ達シ得ルヤ否ヤ

甚疑ナキ能ハス知ラス當局者ハ如何ノ確信アリヤ

○政府委員道家齊 貴問ノ要旨ハ米價調節ノ方法トシテハ田租納期ノ繰下カ果シテ適切ナリヤ否

ヤノ點ニ在ルカ如シ米價調節委員會ハ永久的ノ目的ニテ設ケラレタリ該委員會ノ設置ノ後米價

ハ多少騰貴セシモ概言スレハ尙下落ノ狀況ニ在リ從テ農民ハ甚シク困難ヲ感スルカ故ニ本案ヲ

提出シタルナリ政府ニ於テハ田租ノ延納ヲ最適當ノ救濟方法ナリト信ス又時期ノ點ヨリ見ルモ

十二月ヨリ一月ニ互ルノ間ハ最多ク資金ヲ要スル時ナルヲ以テ田租第一期分ノ延納ヲ許スハ最

機宜ニ適スルモノト認ム

○委員廣瀬滿正 政府委員ノ説明ニ依レハ當局者ハ米ノ投賣ハ十二月頃ニ行ハルルモノト確定セ

ルカ如シ本員ノ知ル所ニテハ米ノ賣拂ハ十二月ニアラスシテ夏季ナリ政府ニ於テ米ノ投賣時期

如何ニ付調査セラレタルモノアラハ一覽ヲ許サレムコトヲ望ム而シテ平常ニ於テスラ五月六月

ノ交ハ米ノ投賣時期ナルニ今本案ニ從ヒ納期ヲ繰下ケテ之ヲ五六月ニ接近シテ納稅セシメ大ハ其ノ弊ハ一層甚シク從テ米價ノ下落ヲ來スヘシ政府ノ所見如何又納稅期ノ變更ハ重大ナルコトナレハ唯或事情ノ爲ニ納期ヲ容易ニ變更スルコトアラハ納稅者ハ豫メ之ヲ知ルコトヲ得サル結果却テ金融界ヲシテ混亂セシムルノ結果ヲ見ルニ至ラサルカ

○政府委員道家齊 農民ノ米ヲ賣却スル時期ヲ表示スルコトハ困難ナリ然レトモ之ヲ概言スレバ米ハ新穀ノ收穫終リ且諸支拂ノ行ハルル時期ナル十二月、翌年ノ一月二月三月頃ニ於テ最多ク賣ラレ從テ米價ハ低落ス然ルニ五月六月ヨリ漸次騰貴スルカ如キ傾向アリ

○委員岡田良平 田租ノ延納ヲ許スノ制ハ米價調節上ニ效力微弱ナリト思惟ス故ニ政府ニ於テ本案ノ外ニ適當ナル方法ヲ講スルノ意思ヲ有スルヤ是レ本案ヲ修正スヘキヤ否ヤヲ決スルニ先テ考慮スヘキ要點ナリト信ス尙米穀ノ貯藏ヲ爲シ得ルニ至ラハ米價ハ自然ニ調節セラルヘシ外國ニハ穀物ノ貯藏方法ニ付キ大著述アリト聞ク當局者ハ貯藏方法ノ研究ニ對シ如何ナル考ヲ有スルカ

○政府委員加藤政之助 米穀ノ貯藏方法ヲ研究スルハ必要ナルハ大藏省當局者ノ認ムル所ナルモ之カ實施ニ必要ナル經費ハ豫算案ニハ計上セザリキ

○委員岡田良平 農商務省當局者ハ此ノ點ニ關シ如何ナル意見ヲ有スルヤ

○政府委員道家齊 米穀ノ貯藏ハ米價調節策トシテ最適當ノモノト思フモ今日迄其ノ方法ニ付學術的ノ研究ヲ遂ケタルモノナカリキ依テ成ルヘク之ニ要スル費用ヲ請求シテ其ノ目的ヲ達スヘシ

○委員岡田良平 右經費ハ追加豫算トシテ請求セラレテハ如何

○政府委員道家齊 未其ノ手續ヲ執ル迄ニハ進捗シ居ラサルナリ

○委員岡田良平 何故ニ追加豫算案ヲ提出セサルカ

○政府委員道家齊 目下研究中ニ屬スレハナリ

○委員岡田良平 若農商務省ヨリ右經費ヲ追加豫算ニ計上シテ議會ニ提出セムトノ請求アラハ大藏省當局者ハ如何ナル處置ニ出ツヘキヤ

○政府委員加藤政之助 其ノ請求提出セラレナハ其ノ時ニ至リ考慮スヘシ

○委員岡田良平 米穀貯藏法研究ニ要スル金額ハ五萬圓乃至八萬圓ヲ以テ十分ナルヘシ故ニ若當局ニシテ其ノ必要ヲ認ムルナラハ支出シ得ルコトト信ス

○委員廣瀬滿正 米價ハ一般ニ十二月ヨリ二月ニ至ル期間ニ於テ廉ク五月乃至七月ノ頃高シ而シ

○テ政府ハ田租ヲ延納セシメ十二月ニ於ケル米價ノ下落ヲ防キ以テ之カ調節ヲ圖ルモノナルカ如シ是レ甚可ナリ併シ延納ヲ許スノ結果五月ト六月トニ相接近シテ納稅セシムルニ至リ却テ五六月ニ於テ米價ニ變動ヲ來スコトトナラサルカ又納期繰延ノ結果一時米價ノ上騰ヲ來シ之カ爲ニ却テ朝鮮米等ノ輸入セラルルコトトナラサルカ或ハ又一面米價ノ上騰ニ伴ヒ米ヲ賣拂フ者大ニ増加シ爲ニ却テ米價ハ下落スヘシ如何

○政府委員道家齊 五六月ノ頃ニ至リ反動ヲ生スル爲調節上ニ十分ノ效果ヲ得ラレサルニ非ザルカトノ疑ヲ懷カルルモ實際下級ノ農民ヲ救フニハ十二月ニ納メシムルヨリモ五月ニ延期スル方可ナリト信ス又朝鮮米ノ内地移入ノ有無ハ商業上ノ取引ノコトナレハ如何トモ斷言シ難シ現在ニテモ移入シツツアルモ延納ノ爲増加スヘシトハ思ハレヌ

○委員橋本圭三郎 本員ハ農民救助ノ趣旨ニハ贊成スルモ目下非常ニ困窮ノ状態ニ在ル者ハ農民ノミニアラス海外貿易殊ニ歐洲トノ貿易ニ從事スル者及其ノ使用人等ハ戰爭ノ影響ニ依リ其ノ業ヲ失ヒ甚シキ窮狀ニ陥レルモノアリ其ノ實例ハ現ニ横濱神戸ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得ヘシ政府ハ是等ノ窮民ニ對シテハ如何ナル方法ヲ採ルノ考ナリヤ次ニ畏レ多キコトナルモ今回ノ御大典ニ際シ或町内ニ於テハ裏店住居ノ貧民ニモ三圓五圓ト謂フカ如キ出資ヲ命シ加之提灯注連繩

等ノ裝飾ノ爲餘分ノ費用ヲ強要シ之ヲシテ一層困窮ニ陥ラシメタリト聞ク之ニ對スル政府ノ所存如何最後ニ又一方ニ於テハ米價ノ下落ハ自然ニ放任スヘシ政府ハ之ニ關係スベカラスト論スル者モアリ其ノ理由ヲ聞クニ米價ノ騰貴スルニ當リテヤ彼等農民ハ其ノ利益ヲ何人ニモ分タス然ルニ一旦收穫多キ爲ニ自然ニ米價下落スレハ政府ニ於テ直ニ人爲的ニ其ノ騰貴ヲ圖ルカ如キハ餘リニ農民ニ厚クシテ其ノ他ノ下級民ニ冷淡ナルニ非スヤト謂フニ在リ政府ハ此ノ種ノ意見ニ對シ如何ナル見解ヲ有スルカ

○政府委員加藤政之助 國民一般ニ多少時局ノ影響ヲ蒙ラサルナシサレト就中農民ノ經濟状態ハ最困難ナリト思フニ由リ先ツ之ヲ救済スルノ考ナリ其ノ他ノ者モ捨置キ難キ状態ニ至ラハ之ニ對シテ適當ノ方法ヲ講スヘシ

○委員橋本圭三郎 商工業者モ捨置キ難キ場合ニハ救助スヘシトハコトナルカ如何ナル時ヲ捨置キ難キ場合ト見ルヘキカ又農民ハ目下捨置キ難キ状態ニ在ルカ故ニ之ヲ救フト謂フカ如キモ此ノ答辨ハ昨日ノ答辨ト相違スルニ非スヤ即昨日政府委員ハ目下ノトコロ納稅者ニ滯納者ヲ増加シタリトハ認メスト言ハレシニ非スヤ然ラハ農民ヲ救助セサルヘカラストスルノ標準ハ如何ニシテ定メラレシヤ

○政府委員加藤政之助 農民ノ窮狀ハ米穀ノ價ヨリ判斷セリ即米價一石當二十餘圓ナリシモノカ
金十二圓トナリシヨリ其ノ窮狀ヲ推察シタルナリ然ルニ商工業者ノ狀態ハ今日ニ於テハ左程甚
シトハ思ハレズ

○委員橋本圭三郎 農民ニ在リテハ米價下落スルモ尙其ノ米ヲ所持スルモ商工業者ニ在リテハ全
然其ノ業ヲ失ヒタルモノアリサレハ前者ハ尙後者ヨリ優レルノ狀況ニ在ルニ非スヤ

○政府委員道家齊 時局ニ對スル救濟ニ付テハ農商務省ハ種種實施セル所アリ例ヘハ蠶絲救濟ノ
如キ低利資金供給ノ如キ是ナリ其ノ他ノ事項ニ付商工業者ニ對シテハ今日是非共救濟セサルヘ
カラサルノ必要アルヲ認メス之ニ反シテ茲ニ田租ノ延納ヲ許スハ米價調節ノ爲ナリ米價調節ノ
必要ナルハ農民ハ全國民中最多數ヲ占ムルヲ以テ是等多數國民ノ困窮ヲ救ヒテ國家ノ基礎ヲ強
固ナラシムルニ於テ闕クヘカラサルモノト認ムレハナリ

○委員橋本圭三郎 此ノ法律案提出ノ理由ハ米價ノ調節ヲ爲スカ爲ナリト謂フサレハ此ノ案ヲ實
施スレハ必米價ハ騰貴スルヤ本案ノ目的其ノ一點ニ存スルヤ

○政府委員加藤政之助 田租第一期分ノ納期ハ眼前ニ切迫セリ且一般ヨリ見ルモ來ルヘキ年年末
始ハ支出ノ多キ時ナレハ自ラ米ノ投賣モ行ハルヘク從テ米價ハ下落スヘシ米價ノ下落ハ即農民

ヲシテ困憊セシムル所以ナリ故ニ此ノ案ヲ實施スレハ米價ノ暴落ヲ防キ從テ農民ヲ救助スルヲ
トヲ得ヘキナリ

○委員橋本圭三郎 昨年實施シタル米價調節方法ヲ適當ナリト思フカ若適當ナリシト思フナラハ
本年モ敢テ之ヲ行フ意思アリヤ

○政府委員加藤政之助 政府ハ昨年五百萬圓ヲ支出シテ米ヲ買上ケタル爲幾分ノ調節ヲ爲シ得タ
リト信ス併ナカラ五百萬圓程ノ金額ニテハ十分ニ目的ヲ達スルコトヲ得ス少クトモ四五千萬

圓ヲ以テ試ミサルヘカラス然ルニ是レ今日ノ經濟狀態ノ許ス所ニ非ス故ニ今年ハ行ハサル考ナ
リ

○委員廣瀬滿正 政府ハ田租第一期分ノ延納ヲ許スニ非サレハ農民ハ米ノ投賣ヲ爲スノ虞アリト
テ之ヲ防ク爲ニ本案ヲ提出セラレシトノコトナルカ本案實施ノ結果五六月ニ至リ相近接シテ二
期分ヲ納稅スルノ必要アリ且其ノ季節ハ恰肥料代金其ノ他必要ノ出資多キニ際スレハ米ノ投賣
ノ行ハルルハ豫想スルニ難カラス果シテ然ラハ政府ハ其ノ時ニ及ヒテ如何ナル手段ヲ採ラムト
スルヤ又農商務省カ毎年發表スル米產額ノ豫想ハ實際ト甚シク相違セリ且其ノ發表ノ時期早シ
トハ學者モ實際家モ齊シク唱フル所ニシテ斯ク早キ時期ニ於テハ到底正確ヲ期シ難シトハ一般

ニ唱道スル所ナルニモ拘ラズ政府カ敢テ之ヲ行フハ如何ナル確信アリ根據アリテ然ルカ説明ヲ與ヘラレタシ又愚考スル所ニ依レハ此ノ豫報ハ米價調節上却テ有害ナリ之ヲ實例ニ徵スルニ本年ハ第一回産額豫想トシテ五千七百萬石ヲ報セラレタル爲米價ハ其ノ發表アリタル日以後二三日ノ間ニ下落ニ次クニ下落ヲ以テシ遂ニ十一圓臺ニマテ低落シタリ然ルニ其ノ後各地ヨリ第一回ノ豫想ノ過大ナリシコトヲ報シ來リシ爲ニ米價ハ漸次上騰シテ十五圓臺ニ騰リシナリ是レ實收高ノ稍正確ニ知ラルルニ至リシ當然ノ結果ト見ルヘク必シモ人爲的調節ノ影響トハ思ハサルナリ政府委員ノ所見如何

○政府委員道家齊 政府ハ五六月頃ニ於テ米ノ投賣ヲ行フニ對シ救濟ヲ與フルノ考ヲ有セス次ニ米産額ノ豫想ハ實際ニ於テ正確ヲ期シ難シ政府ハ帝國農會ニ對シテモ之ヲ確實ナラシムル方法ヲキカ又發表ノ時期ハ何レヲ以テ適當トスルカトノ質問ヲ提出セリ又米價調節委員會ニ於テモ此ノ事ハ齊シク問題トナレリ併ナカラ今日ノ狀況ニテハ一層ノ正確ヲ期シ難シ現ニ行フ所ノ米産額調査ノ方法ハ町村ヨリ郡縣ヲ經テ報告セラルルモノニテ之ニ要スル費用ハ國庫ヨリハ支出セズ唯千葉縣ノ如ク縣費ヲ支出シテ委員ヲ置キテ調査セシムルモノアリ其ノ他ノ町村ニテハ其ノ地方ノ篤農家ヤ役場吏員等ニシテ稍其ノ事ニ通セル者若ハ特ニ技術員ヲ置キテ調査ス今若政

○府ヨリ費用ヲ支出シテ其ノ調査ヲナスニ至ルハ多額ノ經費ヲ要スヘシ政府ハ成ルヘク費用ヲ少クシテ實效ヲ擧ケムコトヲ努ムルモノナリ

○委員岡田良平 昨年買上ケシ米ハ大正二年同三年ノ産米ト入換ヲ爲スニ供セリト聞ク果シテ然ルカ委員加藤政之助 昨買上ケタル米ト入換ヲ爲シタルノミ

○政府委員加藤政之助 之ヲ以テ出喰ミタル米ト入換ヲ爲シタルノミ

○委員岡田良平 買上ケタル米ハ如何ニ處理スル考ナルカ

○政府委員加藤政之助 出來得ル限り外國ニ輸出スル考ナリ

○委員岡田良平 米ノ保存期限ニハ限度アリ故ニ永ク外國ニ輸出スルノ時機ヲ俟ツコト能ハサル

○ヘシ之ニ處スルノ方策如何

○政府委員加藤政之助 其ノ期間内ニ於テ外國ヘ賣却スルノ交渉纏ラサルトキハ内國ニ於テ賣換ヲ行フヘシ

○委員橋本圭三郎 米ノ賣換ヲ行フコトハ一見可ナルカ如キモ之ヲ行フトキハ政府カ米價調節ノ爲ニ米ヲ買上ケルハ理由ヲ没却スルニ非サルカ、想フニ米價ヲ上騰セシムルニハ米ヲ減少セシメサルヘカラス故ニ之ヲ海中ニ投棄スルカ燒棄スルヲ以テ最良ク其ノ目的ヲ達スルコトナ

ルヘシ之ト同シ理由ニテ虫喰ミタル米ヲ其ノ儘貯藏シ置クコトモ可ナルヘシ然ルニ政府カ時時賣換ヲ行ヒテ米ヲ市場ニ出スコトトナラハ調節上有害ナリト思フ如何

○政府委員加藤政之助 當局者トシテハ虫喰ミタル米ニテモ之ヲ捨ツルハ容易ノ事ニ非ス又賣拂

ヒテ其ノ儘ニ放置スルコトモ不能ナルカ故ニ之ヲ外ニ出スト同時ニ少クトモ同量ノ米ヲ買取り

市場ノ在米ニ波動ナカラシメムコトヲ期スルナリ

○委員橋本圭三郎 米ノ賣換ヲ行フコトハ米價調節委員會ニ諮詢シテ之ヲ行ハレシヤ

○政府委員加藤政之助 調節委員會開設ニ先チ之ヲ行ヘリ

○委員橋本圭三郎 或米商ヨリ米ノ買上ヲ申請シタルニ政府ハ硬質米ニ非サレハ買取ラスト答ヘ

ラレタリト聞ク然レトモ政府ノ買上ケシ米ニシテ硬質米ナリシナラムニハ斯クモ早ク虫喰米ト

ナル等ナカルヘシ然ルニ此ノ如キ結果ヲ見タルハ甚奇ナラスヤ

○政府委員加藤政之助 硬質米ヲ買ヒシハ事實ナルモ併シ多量ノ内ニハ硬質米ニ非サルモノモ混

在スルコトハ免レサルナリ其少量ノモノカ虫喰米トナリシノミ決シテ故意ニ粗末ナル米ヲ買ヒ

シニハ非ス

○委員廣瀬滿正 納稅期ヲ改正スルコトハ徵稅法ノ根本義ニ影響ス政府ハ隨時納期ヲ變更スルノ

意ナルヤ今回ノ如ク米價低廉ナレハ納期ヲ延ハシ騰貴スレハ之ヲ繰上クト謂フカ如ク變更スル

○コトハ果シテ當ヲ得タリヤ

○政府委員加藤政之助 納稅期ヲ變更スルコトハ決シテ可ナラス故ニ本案ニ於テモ納稅期ニ關ス

ル根本ノ規定ハ其ノ儘ニ爲シ置キ僅ニ米價ノ調節上延納ヲ許スコトノミニ止メタリ決シテ納稅

期ヲ變更スルニ非ス

○委員廣瀬滿正 政府ハ一大奮發ヲ以テ此ノ二期分ヲ年賦納ト爲シテ農民ニ貸付クルノ意ナキカ

即約十年ヲ期シテ納付セシメテハ如何

○政府委員加藤政之助 政府ニ於テハ田租第一期分ノ納付ヲ六月迄延期セシムルヲ以テ農民ニ對

シ利益ヲ與フルモノナリト思惟ス而シテ其ノ以上ニ延期スルコトハ財政ノ都合上爲シ能ハサル

ナリ

○委員長子爵前田利定 筆記ノ中止ヲ命ス

○委員長子爵前田利定 (筆記中止)

○委員長子爵前田利定 筆記ノ開始ヲ命ス

○委員長子爵前田利定 質問盡キタルヲ以テ本案ニ付討議ヲ爲スヘキ旨ヲ宣告ス

○委員本村誓太郎 衆議院ノ速記録ニ依レハ本案ハ恰條件附ニテ可決セラレタルモノノ如シ本員ハ將來ニ於テハ第一期分ノ納期ヲ繰下クルコトトセラレムコトヲ希望シテ本案ニ賛成ス

○委員岡田良平 本員ハ本村委員ノ意見ニ賛成ス

○委員廣瀬滿正 本員モ本村委員ノ意見ニ賛成ス尙委員會ノ決議トシテ希望スルニハ非サルモ政府ニ於テハ米産額豫想ヲ發表スル時期ヲ遅クセラレムコトヲ望ム

○委員長子爵前田利定 本案ニ付反對意見ヲ有セラルル委員ナキヤ

○委員橋本圭二郎 本員ノ意見ハ前日ヨリ述ヘシ所ニ依リ凡察知セラレシナラムト思フ要スルニ本案ハ甚不十分ノモノナリト思フカ故ニ神野理財局長ノ辯明ヲ聞キタル上ニテ意見ヲ述フルノ考ヲ有セシモ局長ノ出席不可能ナル爲已ムヲ得サルナリ斯カル案ハ將來ニ於テハ十分ノ用意ヲ爲シテ後提出セラレムコトヲ望ム而シテ本案ニ對シテハ不本意ナカラモ賛成ス

○委員長子爵前田利定 本案ヲ表決ニ付ス

○可決

○委員長子爵前田利定 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午後零時三分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正四年田租第一期分延納ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年十二月十四日

右特別委員長

子爵 前田 利定

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 子爵 前田 利定印

副委員長 男爵 北島 齊 孝印

(參照)

華族世襲財產法案

第一條 有爵者ハ世襲財產ヲ設定シ又ハ之ヲ増加スルコトヲ得

第二條 世襲財產ノ設定又ハ増加ハ遺言ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 有爵者カ未成年者、禁治產者又ハ準禁治產者ナルトキハ世襲財產ヲ設定又ハ増加スルコトヲ得ス

第四條 世襲財產ハ家實、不動産、登録國債又ハ記名ノ有價證券ニ限ル

第五條 世襲財產ヲ設定又ハ増加セムトスルトキハ其ノ財產ノ目錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第六條 前條ノ認可ノ申請アリタルトキハ宮内大臣ハ目錄ニ記載シタル財產ヲ世襲財產ト爲スノ當否ヲ調査スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ目錄以外ノ財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第七條 宮内大臣ハ前條ノ調査ニ依リ支障ナシト認めタル財產ニ付第五條ノ認可ノ申請アリタ

ル旨ヲ一週間公告スヘシ

前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目及面積、建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪其
ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項ヲ掲クヘシ

第八條 前條ノ規定ニ依リ公告シタル財產ニ關シ權利ヲ有スル者又ハ民事上ノ強制執行、假差
押若ハ假處分ニ著手シタル者ハ前條第一項ノ公告期間内又ハ其ノ期間滿了後二月内ニ之ヲ宮
内大臣ニ申出ツヘシ

世襲財產ノ設定又ハ増加ノ認可ハ前項ニ定メタル期間滿了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得

第九條 宮内大臣ハ世襲財產ノ設定又ハ増加ヲ認可シタルトキハ其ノ旨及第七條第二項ニ掲ク
ル事項ヲ公告スヘシ

第十條 宮内大臣ハ華族世襲財產臺帳ヲ設ケ世襲財產ニ關スル事項ヲ登録スヘシ

第十一條 世襲財產中登録國債アルトキハ國債登録簿ニ世襲財產タル旨ヲ登録シ有價證券アル
トキハ宮内大臣ハ之ニ世襲財產タル旨ヲ記入スルコトヲ要ス

株券又ハ社債券ニ付テハ前項ノ規定ニ依ルノ外株主名簿又ハ社債原簿ニ世襲財產タル旨ヲ記

入スルコトヲ要ス
登録國債又ハ有價證券ノ世襲財產タル效力ハ前二項ノ要件ヲ具備スルニ非サレハ之ヲ以テ第
三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十二條 世襲財產ノ效力ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至リタル日以後ハ其ノ前ノ原因ニ
基キ世襲財產ニ付所有權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ判決又ハ確定日附アル證書ニ依リテ
前項ノ規定ニ依リテ權利ヲ主張セムトスル者ハ其ノ旨ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

第十三條 世襲財產ハ家督相續人之ヲ相續ス

第十四條 世襲財產又ハ其ノ法定果實ヲ收取スル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ質權若ハ抵當權ノ目的
ト爲スコトヲ得ス株券カ世襲財產タル場合ニ於テ利益又ハ利息ノ配當ヲ受クル權利ニ付亦同

世襲財產ニ付地上權、永小作權又ハ地役權ヲ設定又ハ變更セムトスルトキハ宮内大臣ノ認可
ヲ受クルコトヲ要ス

第十五條 世襲財產ハ民事上ノ強制執行ノ目的ヲ以テ之ヲ差押ヘ又ハ一般ノ先取特權ニ基キ之

ヲ競賣スルコトヲ得ス

世襲財產ノ果實又ハ前條第一項ノ利益若ハ利息ニシテ他ノ財產ト混合セザルモノ亦前項ニ同

前二項ノ規定ハ世襲財產ノ效力ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルニ至リタル日前ニ爲シタル假
差押ニ基キ差押ヲ爲シ又ハ一般ノ先取特權ニ基キ著手シタル競賣ヲ續行スルコトヲ妨ケス

第十六條 世襲財產タル不動産ノ管理ニ付テハ豫メ其ノ方法ヲ定メ宮内大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第十七條 世襲財產ハ確實有利ナル世襲財產ニ換フル爲又ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ
限リ宮内大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第二條、第三條、第五條及第六條ノ規定ハ世襲財產ノ廢止ニ付之ヲ準用ス

第十八條 前條ノ規定ニ依リ確實有利ナル世襲財產ニ換フル爲世襲財產ヲ廢止シタル場合ニ於
テハ廢止ノ認可ヲ受ケタル者又ハ其ノ相續人ハ認可アリタル日ヨリ一年内ニ第五條ノ認可ノ

申請ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ期間内ニ申請ヲ爲ササル下キハ宮内大臣ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ申請ヲ爲スヘキ旨ヲ
命スルコトヲ得

第三條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リテ認可ノ申請ヲ爲スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テ申請ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人之ニ代リテ申請ヲ爲スコトヲ要ス

第十九條 前條ノ規定ハ收用、滞納處分、償還、滅失其ノ他ノ事由ニ因リ世襲財産ニ代リ其ノ所有者ニ歸シタル財産アル場合ニ之ヲ準用ス
前項ノ財産ニシテ他ノ財産ト混合セサルモノニ付テハ第十五條第一項ノ規定ヲ準用ス

第二十條 前二條ノ場合ニ於テ宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ管理人ヲ選任シ世襲財産タルシテ財産又ハ前條ノ財産及其ノ財産ノ處分ニ因リテ得タル財産ヲ世襲財産ノ設定又ハ増加ノ認可アル迄他ノ財産ヨリ分離シテ管理スルコトヲ命スルコトヲ得果實又ハ配當ヲ受ケタル利益若ハ利息ニシテ其ノ財産ト混合シタルモノニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依リテ管理スル財産ハ管理人ニ依ラスシテ之ヲ處分シ又ハ管理ニ因リテ生シタル權利ニ基カスシテ民事上ノ強制執行若ハ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 前條第一項ノ規定ニ依リテ管理スル財産ノ果實ニ關シテハ第十四條第一項及第十五條ノ規定ヲ準用ス其ノ財産中株券アル場合ニ於テ利益又ハ利息ニ付亦同シ

第二十二條 有爵者爵ヲ失ヒ又ハ襲爵者ナキコト確定シタルトキハ世襲財産ハ其ノ效力ヲ失フ

第二十三條 世襲財産ニ付第十二條第二項ノ申出アリタル後二月内ニ主張ニ係ル權利ヲ消滅セシメ又ハ主張ニ對シ訴ヲ提起セサルトキハ世襲財産ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ期間内ハ主張ニ係ル權利ニ基キテ競賣ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條及第二十一條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依リテ世襲財産ノ效力ヲ失ヒタル財産アル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ財産ニ代リ其ノ所有者ニ歸シタル財産アル場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條 世襲財産ノ廢止ハ失効其ノ他ノ異動アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

登錄國債又ハ有價證券ニ付世襲財產ノ廢止又ハ失効アリタルトキハ第十一條ノ登錄又ハ記入ヲ抹消スヘシ

第二十五條 第二十條ノ規定ニ依リテ管理スル財產中登錄國債アルトキハ國債登錄簿ニ管理財產タル旨ヲ登錄シ管理終了シタルトキハ其ノ登錄ヲ抹消スルコトヲ要ス

第十一條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條 世襲財產ニ關スル公告、登記又ハ登錄ノ費用ハ其ノ名義人ノ負擔トス

第二十七條 宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ世襲財產ノ検査ヲ爲サシムル

第二十八條 本法ノ施行ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

附則

從前ノ規定ニ依ル世襲財產及ヒ其ノ附屬物ハ本法ニ依ル世襲財產ト看做ス

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ世襲財產ノ純收益ニ付他人ノ有スル權利ハ本法施行後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前著手シタル差押又ハ假差押ニ付亦同シ

不動產登記法第四百四十三條中「解除ヲ認可シタルトキ」ヲ「廢止又ハ失効アリタルトキ」ニ改メ同法第四百四條ニ左ノ二項ヲ加フ

華族世襲財產法第二十條ノ規定ニ依リ管理ヲ命シタル財產中不動產アルトキハ當該官廳ハ遲滯ナク管理財產タル旨ノ登記ヲ登記所ニ囑託シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

前項ノ管理中取得シタル不動產ニ付テハ管理人ハ取得ノ登記ト共ニ管理財產タル旨ノ登記ヲ申請シ管理終了シタルトキハ其登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長公爵德川慶久 散會ヲ命ス

出席國務大臣 公爵 德川 慶久 副委員長 富井 政章

○委員長 公爵 德川 慶久 副委員長 富井 政章

○委員 子爵 柳 澤 保 惠 同 男爵 小澤 武 雄

○委員 子爵 田 東 助 同 子爵 岡 部 長 職

○委員 子爵 酒 井 忠 亮 同 子爵 水 野 直

○委員 有地品之允 同 同 子爵 奧 田 義 人

○委員 岡野 敬次郎 同 男爵 田 健 治 郎

○委員 本 多 政 以 同 同 桑 田 熊 藏

○委員 司法大臣 尾崎 行 雄

○委員 法制局長官 高 橋 作 衛

○委員 法制局參事官 馬 場 鏌 一

○委員 司法省參事官 山 內 確 三 郎

○委員 出席國務大臣 公爵 德川 慶久

○委員 子爵 柳 澤 保 惠

○委員 子爵 田 東 助

○委員 子爵 酒 井 忠 亮

○委員 有地品之允

○委員 岡野 敬次郎

○委員 本 多 政

○委員 司法大臣 尾崎 行 雄

○委員 法制局長官 高 橋 作 衛

○委員 法制局參事官 馬 場 鏌 一

○委員 司法省參事官 山 內 確 三 郎

○委員 出席國務大臣 公爵 德川 慶久

○委員 子爵 柳 澤 保 惠

○委員 子爵 岡 部 長 職

○委員 子爵 酒 井 忠 亮

○委員 有地品之允

○委員 岡野 敬次郎

○委員 本 多 政

○委員 司法大臣 尾崎 行 雄

○委員 法制局長官 高 橋 作 衛

○委員 法制局參事官 馬 場 鏌 一

○委員 司法省參事官 山 內 確 三 郎

○委員 出席國務大臣 公爵 德川 慶久

○委員 子爵 柳 澤 保 惠

○委員 子爵 岡 部 長 職

○委員 子爵 酒 井 忠 亮

出淵園藤大知 司法大臣 尾崎 行雄
 出席政府委員 桑田 菊雄
 出席主務官 田中 龍雄 法制局長官 高橋 作衛
 法制局參事官 馬場 鏡一
 司法省參事官 山内 確三郎
 開會 午前十時十九分
 ○委員長公爵德川慶久 開會ヲ宣告ス
 ○委員長公爵德川慶久 休憩ヲ命ス
 第三回休憩 午前十一時五十二分
 開會 午後一時二十九分
 ○委員長公爵德川慶久 開會ヲ宣告ス
 ○委員長公爵德川慶久 散會ヲ命ス
 散會 午後一時五十六分

○附(附記一) 同日委員伯爵柳澤保惠ハ華族世襲財產法改正法律案審査ノ進行ヲ計ル爲特別委員中
 附會 ヲリ小委員ヲ選ハレムコトヲ發議シ委員富井政章ハ小委員ノ選定並小委員ノ員數ハ
 第五回 總テ委員長ニ一任スルノ動議ヲ提出シ委員會ニ於テ異議ナク之ヲ可決セリ又委員伯
 爵柳澤保惠ハ小委員ノ審査期限ヲ審査終了次第トシタキ旨ヲ發議シ委員會ニ於テ可
 決シタルヲ以テ委員長ハ直ニ左ノ六名ヲ指名シタリ
 出淵園藤大知 伯爵 柳 澤 保 惠
 出淵園藤大知 子爵 岡 部 長 職
 出淵園藤大知 男爵 岡 野 敬 次 郎
 出淵園藤大知 田 中 健 治 郎
 出淵園藤大知 富 井 政 章
 (附記二) 華族世襲財產法改正法律案特別委員小委員ハ大正四年十二月二十五日、大正五年一
 月四日 大正五年一月二十八日及同年一月三十一日ノ四回會議ヲ開キテ審査ヲ遂ケ修
 正案ヲ提出シタリ修正案略之(貴族院華族世襲財產法改正法律案特別委員會議事速

記錄第四號二十九頁以下參照

第四回 大正五年二月九日 第一日 二十八日 同 第一日 三十一日 同 四日 會議 審議 審議

出席委員 華族世襲財產法改正法律案特別委員會 小委員 大正五年二月十二日 二十五日 二十五日 第一

- 副委員長 富井政章 委員 伯爵 柳澤保惠
- 子爵 平田東助 子爵 岡部長職
- 子爵 水野直 同 奧田健義人
- 同 岡野敬次郎 同 男爵 田田健治郎
- 同 男爵 本多政以 同 子爵 桑田熊藏

出席政府委員 前 爵 高橋作衛

法制局長官 高橋作衛

司法省參政官 大川大吉 大川大吉 大川大吉

開會 午前十時二十五分

○副委員長富井政章 開會ヲ宣告ス

○副委員長富井政章 散會ヲ命ス

第五回 大正五年二月十日 同 川 案 表 現

出席委員 富井政章 委員 伯爵 富井政章

副委員長 富井政章 委員 子爵 平田東助

大同 子爵 岡部長職 同 子爵 酒井忠亮

水野直 同 奧田義人

岡野敬次郎 同 男爵 田健治郎

多 同 桑田熊藏

出席國務大臣 尾崎行雄

司法大臣 尾崎行雄

法制局長官 高橋作衛

法制局參事官 馬場大鏡一

開會 午後一時四十八分

司法省參政官

田川大吉郎

○副委員長富井政章 開會ヲ宣告ス

高橋

高橋

○副委員長富井政章 散會ヲ命ス

散會 午後三時五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ

華族世襲財產法改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正五年二月十日

副委員長

富井

政章

右特別委員副委員長

富井

政章

出席委員

富井

政章

田川大吉郎

富井

政章

大貴族院議長公爵德川家達殿

(附記) 別冊略之貴族院議事速記録第十號百十七頁乃至百十九頁參照

○副委員長富井政章

委員長 公爵

德川

慶久印

副委員長

富井

政章印

○大正四年十二月二十七日議長ノ指名ヲ以テ國務院出納總務課長富井政章特別委員ヲ選定ス

○大正五年一月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	侯爵	德川 賴倫
副委員長		小野田田元 熙
		高 齋 博 吉
		羽本 隆 之 也

會議

第一回 大正五年一月十八日

出席委員

委員長	侯爵	德川 賴倫	副委員長	侯爵	小野田田元 熙
委員	子爵	稻垣 太祥	同	男爵	小早川四郎
同	男爵	黒田 長和	同	男爵	藤 田 太 雅
出席政府委員			同	男爵	黒川 謙 吉

加藤

大藏省參政官

加藤政之助

○大正四年十二月二十日編纂ノ出納金端數計算法案ヲ以テ大藏省副參政官 兼 出納金端數計算法案特別委員會委員長 安部新九郎式

委員選舉

大藏省主稅局長

松本 重 威

國庫出納金端數計算法案特別委員會

大藏書記官

吉川 良 矩

○開會 午前十時十五分 國庫出納金端數計算法案特別委員會 開會ヲ宣告ス 總理大臣 兼 國庫出納金端數計算法案特別委員長 安部新九郎式

○委員長 侯爵 德川 賴倫 開會ヲ宣告ス 總理大臣 兼 國庫出納金端數計算法案特別委員長 安部新九郎式

(參照)

國庫出納金端數計算法案

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニシテ一錢未満ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其人

○全額一錢未満ナルトキハ之ヲ一錢トス 其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ其人

第二條 國稅ノ課稅標準額ノ算定ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用ス

命令ヲ以テ指定スル國稅ノ課稅標準額ニシテ一圓未満ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨

第三條 分割シテ收入シ又ハ仕拂フ金額ニ在リテハ其ノ總額ニ付第一條ノ規定ヲ準用ス

第四條 分割シテ收入又ハ仕拂フ爲ス場合ニ於テ分割金額一錢未満ナルトキ又ハ之ニ一錢未満

ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ分割金額又ハ端數ハ最初ノ收入金又ハ仕拂金ニ之ヲ合算ス但シ

地租ノ分納額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス

法律ニ別段ノ定アルモノ以外本法ヲ適用セサルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ハ北海道府縣郡市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル公共團體ノ收入及仕拂ニ關シテ之ヲ準用ス

第七條 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治四十年法律第三十一號ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前納入ノ告知ヲ爲シ又ハ仕拂ノ命令ヲ發シタルモノニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス

○委員侯爵德川賴倫 政府委員ヨリ本案ニ付大體ノ説明アラムコトヲ求ム

○政府委員加藤政之助 國庫出納金端數計算法ニ付テハ明治四十年法律第三十一號ニ依リ端數ノ厘位ヲ大體切捨シルコトト定マレルモ地租ノ稅額ノ端數及全額一錢未滿ノ國庫出納金ニ就キテハ之ヲ五厘トシテ計算スルコトトナレリ然ルニ斯ク厘位ヲ存スルコトハ社會經濟ノ進歩セル今日ノ時勢ニ伴ハストシテ之カ改正ヲ求ムルノ聲ハ官民雙方ヨリ屢之ヲ聞クノミナラス又事務簡捷ノ主旨ヨリスルモ現行法改正ノ必要アルヲ認メ茲ニ本案ヲ提出セリ、此ノ改正カ國庫ノ收支ニ及ボス影響ニ付テハ何分口數頗多クシテ明確ナル見込ヲ立ツルコト能ハサルモ地租ニ付テハ

○多少國庫ノ損失ト爲リ勸業債券ノ利子ニ付テハ多少ノ增收トナルヘキ見込ナリ

○委員小野田元瀨 國庫收入増減ノ見込高ニ就キテ今一應ノ説明アリタシ

○政府委員松本重威 極メテ大體ノ推定ニ止マルモ地租ノ如キ口數多キ國稅ニ付テハ厘位ノ切捨

テラルル結果二十萬圓程國庫ノ損失トナリ之ニ反シテ勸業債券利子ニ付テハ二萬一千六百餘圓

程國庫ノ增收トナルヘキ見込ナリ

○委員小野田元瀨 第一號後段ニ付説明アリタシ

○政府委員松本重威 原則トシテハ第一段ノ所定ノ如ク厘位ハ之ヲ切捨ツルモ若全額一錢未滿ノ租稅トカ國庫仕拂金トカニ於テ此ノ原則ヲ適用スルニ於テハ收入支出ハ零ニ歸シ權利者ハ之カ爲ニ損害ヲ受ク例ヘハ全額九厘ノ租稅ニ厘位切捨ノ原則ヲ適用セハ政府ノ權利ハ無ニ歸シ全ク其ノ義務者ヨリノ納稅ヲ失フコトトナルナリ此ノ不當ナル結果ヲ避クル爲斯カル場合ニハ例外トシテ厘位ヲ一錢ニ切上ケテ計算セムトスルモノナリ

○委員男爵黑田長和 本案提出ノ理由ハ取扱ノ繁雜ヲ避クルト云フ點ノミニ存スルカ

○政府委員松本重威 全ク官民相互ノ手數ヲ省略セムトスルノ主意ナリ

○委員男爵黑田長和 現行法ノ規定ハ計算上正確ナリト認ムルニ拘ラス其ノ點ヲ犧牲トシテモ尙

- 便利ナル方法ニ從フヲ以テ適當ト認ムルヤ
- 政府委員松本重威 然リ
- 委員子爵稻垣太祥 第二條第二項ニ付説明ヲ求ム
- 政府委員松本重威 命令ヲ以テ指定スル國稅例ハ營業稅所得稅相續稅ノ如キニ在リテハ課稅標準額ハ巨大ナルニ之ニ對シ千分ノ二十五トカ千分ノ三十五トカ謂フカ如キ細カキ稅率ヲ乘シテ納稅額ヲ定ムルモノナルヲ以テ此ノ課稅標準額ニ付一圓未滿ノ端數ヲ切捨ツルモ納稅額ニ影響スルコト甚小ナリ而シテ之ニ何十何錢ト云フカ如キ端數ヲ存スルハ計算上頗繁雜ナルヲ以テ本案提出ノ主旨上例外トシテ之ヲ切捨ツルコトニ定メタルナリ
- 委員男爵黒田長和 現行法ニ依レハ此ノ種ノ租稅ニ付テモ一圓未滿ヲ切捨テサルニ之ヲ切捨ツルコトニ改正セル結果國庫ノ收入ヲ減スヘシ其ノ減額ノ見込如何
- 政府委員松本重威 其ノ額ハ頗微少ナルヘシ
- 委員小野田元熙 第三條第四條ニ「分割シテ收入シ又ハ仕拂フ」云云ノ法文アリ之ニ付テ説明アリタシ
- 政府委員松本重威 例ハ所得稅ノ如キハ四期ニ分チテ徵收ス此ノ場合ニ於テ其ノ總額ニ就キ

- テ第一條ノ規定ヲ準用シテ厘位ヲ切捨ツルト謂フカ第三條ノ規定ナリ又之ヲ分割シテ收入仕拂フ爲ストキ例ハ總額九錢ノ稅金ヲ四期ニ分チ納入セシムル如キ場合ニ一回二錢分二厘五毛ヲ每納期ニ付一ニ端數整理ヲ行フヨリモ二厘五毛宛ヲ最初ノ納稅額中ニ合算シ即第一期分ヲ三錢トシテ納入セシムルカ第四條ノ規定ナリ
- 委員男爵小早川四郎 地租ニ付第四條ニ但書ヲ設ケタル理由ヲ説明アリタシ
- 政府委員松本重威 地租以外ノ他ノ租稅ハ初メヨリ稅額決定シ其ノ後ハ不動ナルトモ地租ニ在リテハ然ラス一年間ニ土地ノ賣買等ニ依リ或人ノ所有權ニ屬スル土地ノ地價合計額ハ常ニ増減スヘキコトヲ豫想セサルヘカラス而シテ地租ハ此ノ動的ナル地價ノ納期毎ニ於ケル合計ニ付之ヲ標準トシテ稅額ヲ定ムルモノナルヲ以テ最初ヨリ各納期ニ於ケル稅額ヲ見越スコト能ハス從テ之カ端數ヲ最初ノ納入額ニ合算スルハ事實上不可能ナリ是レ地租ニ付テ但書アル所以ナリ
- 委員男爵黒田長和 地租ノ課稅標準額カ動的ナリトノ理由ハ他ノ所得稅ノ如キニ付テモ同様ニアラスヤ
- 政府委員松本重威 然リ、然レトモ所得稅ニ付テハ或特別ノ場合ニ例外規定アル外原則トシテハ事實上ノ課稅標準額ノ移動ニ依リテ一旦決定セル稅額ヲ時時動カスコトナシ故ニ地租ト同様

ナル例外ノ必要ヲ生セス
 ○委員小野田元熙 第五條ニ於テ「賣藥印紙稅及郵便切手ヲ以テ納ムル郵便料金ニ付テハ本法ヲ適用セス」トアルモ序ニ之等ニ在リテモ厘位切捨ヲ爲スコトニ定ムル能ハサルカ又郵便料金ノ五厘ヲ廢スルコトニ付テハ大藏當局ハ遞信當局ト何等カノ交渉ヲナサザリシカ
 ○政府委員松本重威 賣藥印紙稅ハ定價ノ一割ト云フ稅率ナルヲ以テ稅額ニ厘位ヲ存シ又ハ全額一錢未滿ナルコトハ普通ノ場合ニシテ之ニ厘位切捨ノ原則ヲ適用スルコトハ不穩當ナルヘク依テ之ヲ例外トセルナリ又郵便切手ヲ以テ納ムル料金ニ付テハ普通最目ニ觸ルルハ葉書ナルカ之ヲ端數無キ一錢又ハ二錢トスル
 ○コトハ國庫ノ收入ニ大ナル影響アルヘキ大問題ニテ容易ニ行ハルヘシトモ覺エス依テ此ノ點ニ付テハ遞信省當局者ト交渉シタルコトナシ
 ○委員侯爵德川賴倫 序ナカラ一言セム郵便葉書料金一錢五厘ヲ一錢トセハ之カ爲ニ其ノ賣下高ヲ増加シ國庫ノ收入ハ却テ増加スルカ如キコトハ無カルヘキカ嘗テ英國ニテ恰斯カル事實アリシト記憶スヘシ
 ○政府委員松本重威 未講究ヲ經サルモ郵便葉書ノ料金ヲ一錢ニ引下クルモ却テ國庫ノ收入ハ増

加ストハ期シ難キコトニハ非サト思ハル

○委員長侯爵德川賴倫 質問盡キタルヲ以テ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長侯爵德川賴倫 本案ハ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午前十時五十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

國庫出納金端數計算法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年一月十八日

右特別委員長

侯爵 德川 賴倫

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 侯爵 德川 賴倫

副委員長 小野 田 元 熙印

○大正五年一月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

- | | | | |
|------|----|----|-----|
| 委員長 | 伯爵 | 林 | 博太郎 |
| 副委員長 | 子爵 | 牧野 | 忠篤 |

第一回 大正五年一月十八日

會議

出席委員

- | | | | | | | | |
|-----|----|----|-----|------|----|-----|-----|
| 委員長 | 伯爵 | 林 | 博太郎 | 副委員長 | 子爵 | 牧野 | 忠篤 |
| 委員 | 男爵 | 高木 | 兼寛 | 同 | 男爵 | 北大路 | 實信 |
| 同 | 男爵 | 藤堂 | 高成 | 同 | 子爵 | 三宅 | 忠秀 |
| 同 | | 木場 | 貞長 | 同 | 伯爵 | 南 | 則太弘 |
| 同 | | 石橋 | 謹二 | | | | |

○大正五年一月十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

出席政府委員

- | | | |
|------|----|----|
| 文部大臣 | 高田 | 早苗 |
|------|----|----|

出席委員

第二回 大正五年一月二十二日

○委員長伯爵林博太郎、開會ヲ宣告ス、大體ノ趣旨ヲ宣シ、

(参照) 大正五年一月二十二日開會ノ趣旨ニ付テハ、

○委員長伯爵林博太郎、開會ヲ宣告ス、大體ノ趣旨ヲ宣シ、

(参照) 大正五年一月二十二日開會ノ趣旨ニ付テハ、

○委員長伯爵林博太郎、開會ヲ宣告ス、大體ノ趣旨ヲ宣シ、

(参照) 大正五年一月二十二日開會ノ趣旨ニ付テハ、

○委員長伯爵林博太郎、開會ヲ宣告ス、大體ノ趣旨ヲ宣シ、

(参照) 大正五年一月二十二日開會ノ趣旨ニ付テハ、

○政府委員松浦鎮次郎、大正三年十月傳染病研究所ヲ内務省所管ヨリ文部省所管ニ移シタリ其ノ

趣旨ハ帝國大學醫科大學ハ醫學ノ教育ヲ施スノ外又斯學ノ研究ヲ爲スヲ目的トス然ルニ内務省所管ノ傳染病研究所モ亦斯學ノ研究ヲ目的トスルヲ以テ二者其ノ所管ヲ異ニシテ何等無關係ノ地位ニ在ラシムルヨリハ寧同一官省ノ所管ニ屬シ相扶ケテ研究ヲ爲スヲ以テ便宜ナリト思惟セシヲ以テ同所ヲ東京帝國大學ニ併合スルノ目的ヲ以テ文部省ノ所管ニ移シタルナリ而ルニ同年第三十五回帝國議會解散ノ爲豫算不成立トナリ之ヲ東京帝國大學ニ併合スルノ運ニ至ラスシテ今日ニ及ヘリ而シテ傳染病研究所ニ於ケル收支ノ關係ヲ見ルニ血精ノ賣下價格ヲ四割値下セル爲收入ニ於テ八萬圓ノ減少ヲ來シタリ依テ一方ニ於テハ事業ヲ縮少セサル範圍ニテ出來得ルタケ支出ヲ減少シ其ノ剩餘ヲ以テ之カ不足ヲ補ヒ尙足ラサル所アルヲ以テ政府支出金三萬圓ヲ増加スルノ必要ヲ認メタリ本案提出ノ大體ノ趣旨斯ノ如シ

(附記) 以下本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後零時七分

第二回 大正五年一月二十二日

出席委員

文部省 山田 義之輔
 文部省 田 淵 美 彦
 文部省 藤 野 義 典
 文部省 大 井 啓 一 朗

委員長 伯爵 林 博 太 郎 副委員長子爵 牧 野 義 忠 篤

委員 男爵 高 木 兼 寛 同 男爵 北 大 路 實 信

同 男爵 藤 堂 高 成 同 男爵 三 野 宅 文 秀

同 木 場 貞 長 同 南 弘

出席國務大臣 文部大臣 高 田 早 苗

出席政府委員 文部大臣 高 田 早 苗

出席政府委員 內務省參政官 藤 澤 幾 之 輔

出席政府委員 內務省衛生局長 中 川 望

出席政府委員 文部省參政官 大 津 淳 一 郎

出席政府委員 文部省專門學務局長 松 浦 鎮 次 郎

出席政府委員 文部省專門學務局長 松 浦 鎮 次 郎

出席政府委員 文部省專門學務局長 松 浦 鎮 次 郎

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

○散會 午後零時一分

第三回 大正五年一月二十五日

出席委員

委員長 伯爵 林 博太郎 副委員長子爵 牧野忠篤

委員 男爵 高木 兼寛 文務省同僚官 男爵 北大路實信

同 男爵 藤堂 高成 內務省同僚官 三宅 秀

同 木場 貞長 同僚官 南 弘

出席國務大臣 石橋 謹二

出席國務大臣

文部大臣 高田 早苗

出席政府委員

同 內務省參政官 藤澤 幾之輔

同 內務省衛生局長 中大川 實望

同 文部省參政官 大津 淳一郎

文部省專門學務局長

松浦 鎮次郎

文部書記官

山崎 達之輔

○開會 午前十時十九分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時二十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

帝國大學特別會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年一月二十五日

右特別委員長

伯爵 林 博太郎

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 林 博太郎印

副委員長 子爵 牧 野 忠 篤 印

大正四年十二月二十七日議長ノ指名ヲ以テ造幣局設備擴張費ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スル

委員 子爵 林 朝 太 浪

大正五年一月二十五日

帝國大學特別會計法改正法律案特別委員會

開會 午後十時十分

委員 子爵 林 朝 太 浪

委員 子爵 林 朝 太 浪

開會 午後十時十分

文部大臣 高 田 早 苗
文部省參事官 藤 澤 謙 之 輔
文部省書記官 山 田 貞 文 郎
文部省書記官 林 節 雄 大 浪

造幣局設備擴張費ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正四年十二月二十七日議長ノ指名ヲ以テ造幣局設備擴張費ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スル

コト左ノ如シ

委員 子爵 青 木 信 光

委員 子爵 八 條 隆 正

委員 子爵 毛 利 五 郎

委員 子爵 尾 崎 麟 太郎

委員 子爵 中 島 永 元

委員 子爵 千 頭 清 臣

委員 子爵 仁 尾 惟 茂

委員 子爵 武 石 橋 次

委員 子爵 安 田 善 三 郎

○大正五年一月十七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	子爵	青木善信	光
副委員長		仁尾惟茂	

會議

第一回 大正五年一月十七日

出席委員

委員長	子爵	青木	信光	副委員長	仁尾惟茂		
委員	子爵	八條	隆正	同	男爵	毛利五郎	
同		中島	永元	同	子爵	八條	劉五

出席政府委員

大藏省參政官

加藤政之助

○大正四年十二月二十日臨時議會ヲ以テ大藏省理財局長ニ關スル神樂野野勝員之贊助

○委員長子爵青木信光 開會ヲ宣告ス委員會

(參照)

造幣局設備擴張費ニ關スル法律案

大正五年度ニ於テ造幣局ノ設備擴張ニ要スル經費ニ充用スルカ爲造幣局資金ノ内一萬六千九百五圓ヲ限リ一般會計ニ繰入ルルコトヲ得

○政府委員加藤政之助 造幣局ノ設備ハ明治二十一年ニ成リタル所ニシテ爾來地金精製事業ノ増

加ニ伴ヒ次第ニ繁忙ヲ極メ殊ニ大正三年以來益甚シク現今ニ於テハ休暇ヲ廢シ且夜業ヲ爲シ辛

クシテ需用ニ應スルノ状態ナリ尙此ノ上事業増加セハ現在ノ設備ヲ以テシテハ到底需要ニ應ス

ル能ハス故ニ設備擴張ニ要スル經費ニ充ツル爲造幣局資金ノ一部ヲ一般會計ニ繰入ルル必要ア

ルヲ以テ本案ヲ提出スル所以ナリ

○委員仁尾惟茂 造幣局ニ於ケル地金ノ精製ハ金ノミニ付之ヲ行フヤ

○政府委員加藤政之助 金銀共ニ精製ス

○委員中島永元 造幣局ニ於テハ外國貨幣ノ鑄造ヲモ引請クルコトアリヤ

○政府委員加藤政之助 外國貨幣ノ鑄造ヲモ引請クルコトアリ現ニ此ノ事ニ付露國ヨリ交渉ヲ受

○ケツツアリ

- 委員中島永元 造幣局ニ於テハ從來外國ノ貨幣ヲ鑄造シタルコトアリヤ
- 政府委員神野勝之助 韓國政府ノ請求ニ應ジ韓國ノ貨幣ヲ鑄造シタル前例アリ
- 委員男爵毛利五郎 今回ノ設備擴張ハ造幣局資金ヲ使用シテ行フモノナリヤ又其ノ資金ノ利子ヲ使用スルノミニテハ足ラサルヤ
- 政府委員神野勝之助 今回ノ設備擴張ハ造幣局資金ノ利子ヲ使用シテ之ヲ行フモノニシテ元金ヲ使用スルニアラス又使用ノ上ハ資金特別會計へ返還スルモノニモアラサルナリ
- 委員男爵毛利五郎 造幣局資金ノ現在額ハ幾許ナリヤ又今回ノ擴張ハ現在ヨリモ其ノ作業能力ヲ増進セムカ爲ニ行フモノナリヤ
- 政府委員神野勝之助 大正三年度末ノ調査ニ依レハ造幣局資金ハ千三百八十萬圓ニシテ其ノ内清國事件費ニ繰替使用セラレシモノハ二百二十八萬圓ナリ次ニ造幣局ノ事業ハ金銀ノ精製分析或ハ品位證明等ニシテ之ヲ遂行スルニハ今日ノ設備ヲ以テシテハ尙不十分ナリ從テ作業ノ日數自ラ延引スルヲ以テ其ノ設備ヲ擴張セムト欲ス今金銀輸納高ニ就キ之ヲ見ルニ明治四十二年度ニハ一萬七千六百貫ヲ明治四十三年度ニハ二萬千百貫ヲ明治四十四年度ニハ二萬六千六百貫ヲ大正元年度ニハ二萬九千二百貫ヲ大正二年度ニハ二萬八千二百貫ヲ大正三年度ニハ三萬三千八百

- 貫ヲ算スルニ至リ大正三年ノ量ヲ數年前ノモノニ比スレハ殆倍加セムトスルノ勢ヲ示セリ故ニ從來ノ設備ヲ以テシテハ到底不十分ナルヲ免レヌ是レ本案ヲ提出シテ擴張ヲ行ハムトスル所以ナリ
- 委員男爵毛利五郎 大正三年度ニ於ケル輸納地金三萬三千貫ヲ貨幣ニ換算セハ約幾許トナルヤ
- 政府委員神野勝之助 三萬三千貫中金ハ凡五千貫ニシテ之ヲ一匁五圓トセハ二千五百萬圓ナリ又銀ハ二萬八千貫ニシテ之ヲ一匁十四錢ト假定セハ四百萬圓トナル
- 委員男爵毛利五郎 金ハ近來其ノ產出額ヲ増加セリ現ニ予ノ知己中ニモ之カ產出ノ増加ノ爲熱心ニ努力スル者アリ此ノ傾向ヲ以テセハ將來大ニ產額ヲ増シ從テ其ノ精製高モ増加スルニ至ラ
- 政府委員加藤政之助 政府ハ輸納高増加ノ割合ヲ見テ設計シタルモノナリ又假合金ノ產出額増加スルモ之カ全部ヲ精製スルモノニモアラス故ニ政府ハ當分本案ニ依ル擴張ヲ以テ差支ナシト
- 委員男爵毛利五郎 金銀ノ精製ニ付テハ勿論品位證明等ト雖多少ノ手數ヲ要スルヤ明ナリ果シテ然ラハ本案ノ設備ハ之ニ應スルニ足ルノ計畫ナリヤ又金ノ產額ハ幾何ナリヤ

○政府委員神野勝之助 各年度ニ於ケル輸納高ハ先刻既ニ述ヘシ如クニシテ金ノ產出高ハ目下内地ニ於テ凡千萬圓朝鮮ニ於テ千萬圓臺灣ニ於テ二百萬圓合計二千二百萬圓ヲ算ス銀モ亦相當產額ヲ増スト雖前述ノ如ク本案ノ設備擴張ヲ以テ當分ノ間ハ十分ナリト信ス

○委員男爵毛利五郎 唯今ノ説明ニ依レハ金ハ一年ノ產出高二千二百萬圓ナリ然ルニ先刻政府委員ノ説明ニ依レハ金ノ輸納高ハ一年間ニ二千五百萬圓ナリトアリ其ノ差アルハ如何

○政府委員神野勝之助 前述ノ二千五百萬圓トハ外國主トシテ支那ヨリ買入レ輸納シタルモノヲ合セタル結果ナラムト思惟ス内國ノ產額ノミヲ舉クレハ二千五百萬圓以内ナリ

○委員男爵毛利五郎 本案ノ繰入金ニ萬六千九百五圓ハ品位證明ノ爲ニ要スル設備費ナリヤ

○政府委員神野勝之助 之ハ品位證明ノミナラス精製ノ上地金ヲ返サスシテ之ニ對應スル貨幣ノ拂渡ヲ爲スニ必要ナル設備ノ費用ヲ含ムモノナリ

○委員男爵毛利五郎 金ノ輸納高二千五百萬圓ハ總テ日本銀行ノ正貨トナルヤ

○政府委員神野勝之助 日本銀行ノ正貨準備ハ年年千萬圓乃至三千萬圓位ツツ増加ス併ナカラ一方ニ於テハ兌換ヲ行フヲ以テ年ニ依リテハ正貨準備減少スルコトアリ

○委員男爵毛利五郎 近來日本銀行ニ於テ正貨準備ノ増加シタル原因ハ地金カ外國ヨリ來リシモノ

ノアルノミナラス日本ヨリ產出セシモノモアリト信ス果シテ然ラハ内國產ノ金ハ大正三年度迄ニ如何ナル割合ヲ以テ日本銀行ノ正貨準備ノ増加中ニ加ハリシヤ統計表ヲ以テ説明アラムコトヲ求ム

○政府委員神野勝之助 該表ハ取調ヘテ作成ノ上貴覽ニ供スヘシ

○委員長子爵青木信光 質問盡キタルヲ以テ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長子爵青木信光 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午後三時三十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

造幣局設備擴張費ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年一月十七日

貴州通商社公債償還川案表決

委員 右特別委員長 青木 信光
子爵 青木 信光

委員長及副委員長選舉

○大正五年一月二十一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	奧平昌恭
副委員長	平山成信	

竹村與右衛門

會議

第一回 大正五年一月二十二日

出席委員

大藏中委員長	伯爵	奧平昌恭	副委員長	平山成信
--------	----	------	------	------

○大正四年委員	子爵	小幡解由小路資承	同	男爵	中村川大興
---------	----	----------	---	----	-------

委同	河村讓三郎	同	谷森真男
----	-------	---	------

(同)	同	同	同	同	竹村與右衛門
-----	---	---	---	---	--------

大正五年出席國務大臣

司法大臣	尾崎行雄
------	------

出席政府委員

司法省參政官	田川大吉郎
--------	-------

司法省副參政官	關和知
---------	-----

司法省法務局長	豐島直通
---------	------

司法書記官	平野亮平
-------	------

開會 午前十時十六分

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

(參照)

裁判所ノ設立及移轉ニ關スル法律案

第一條 北海道旭川區ニ地方裁判所ヲ置キ之ヲ旭川地方裁判所ト稱ス

第二條 根室地方裁判所ハ之ヲ北海道釧路郡釧路町ニ移シ釧路地方裁判所ト改稱ス

附則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

大正五年法律第九號中改正法律案

大正二年法律第九號中左ノ通改正ス

別表裁判所管轄區域表中大津區裁判所及長濱區裁判所ノ項ヲ左ノ如ク改ム

大津	滋賀縣ノ内 大津市 滋賀郡 栗太郎 野洲郡 甲賀郡 高島郡
長濱	滋賀縣ノ内 阪田郡 東淺井郡 伊香郡

同表中札幌地方裁判所ノ部ヲ左ノ如ク改ム

札幌	北海道ノ内 札幌區 札幌郡 千歲郡 石狩郡 厚田郡 濱益郡 夕張郡 空知郡ノ内 岩見澤町 沼貝村 栗澤村 三笠山村 幌向村 北村 樺戸郡ノ内 月形村 浦臼村 北海道ノ内
----	---

同表中大津區裁判所ノ部ヲ左ノ如ク改ム

室蘭	室蘭郡 有珠郡 幌別郡 白老郡 虻田郡ノ内 虻田村 辨邊村
札幌	勇拂郡ノ内 苫小牧村 安平村 厚真村 鷗川村 似灣村 累標村 穂別村 邊富内村
浦河	北海道ノ内 浦河郡 様似郡 幌泉郡 三石郡 靜内郡 新冠郡 沙流郡
小樽	北海道ノ内 小樽區 小樽郡 高島郡 忍路郡 余市郡 古平郡 美國郡 積丹郡
岩内	北海道ノ内 岩内郡 古宇郡 磯谷郡 歌棄郡 壽都郡 島牧郡 虻田郡ノ内 俱知安村 東俱知安村 真狩村 狩太村

旭川		北海道ノ内 旭川區 上川郡 <small>(石狩國)</small> 雨龍郡 上川郡 <small>(天鹽國)</small> 中川郡 <small>(天鹽國)</small>
旭川	瀧川町 砂川村 歌志内村 蘆別村 江部乙村 音江村 上富良野村 下富良野村 山部村 南富良野村 樺戸郡ノ内 新十津川村 勇拂郡ノ内 占冠村	
增毛	北海道ノ内 增毛郡 留萌郡 苫前郡 天鹽郡	
稚内	北海道ノ内 宗谷郡 枝幸郡 利尻郡 禮文郡	

同表中地方裁判所ノ欄中「根室」ヲ「釧路」ニ改ム

同表中樺太地方裁判所ノ部ヲ左ノ如ク改ム

樺太	樺太ノ内 豊原郡 榮濱郡 元泊郡 大泊郡 長濱郡 富内郡 留多加郡 新問郡 敷香郡 散香郡
眞岡	樺太ノ内 眞岡郡 本斗郡 野田寒郡 泊居郡 久春内郡 鶉城郡 名好郡

附則

本法施行ノ期日ハ各項ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前札幌地方裁判所、長濱區裁判所又ハ豊原區裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ各其ノ裁判所ニ於テ之ヲ完結ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵奧平昌恭 散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十八分

第二回 大正五年一月二十八日

出席委員 正平 二月二十八日

委員長 伯爵 奥平 昌 恭 委員 子爵 勘解由小路 資承

○委員 同 伯爵 平子爵 酒井 忠 亮 同 河村 讓三郎

(附記) 本委員會委員 谷 森 眞 男 同 奥山 政 敬

同 竹村 與右衛門

本出席政府委員 司法省參政官 田川 大吉郎

司法省法務局長 豐島 直通

開會 午後一時二十七分

○委員長 伯爵 奥平 昌 恭 開會ヲ宣告ス

○委員長 伯爵 奥平 昌 恭 散會ヲ命ス

散會 午後一時三十六分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

裁判所ノ設立及移轉ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年一月二十八日

右特別委員長

伯爵 奥平 昌 恭

貴族院議長 公爵 德川家達殿

大正二年法律第九號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年一月二十八日

右特別委員長

伯爵 奥平 昌 恭

貴族院議長 公爵 德川家達殿

委員長 伯爵 奥平 昌 恭 印

副委員長 平山 成 信 印

○大正五年一月十七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	松平直之
副委員長	子爵	樋口誠康

會議

第一回 大正五年一月二十四日

出席委員

委員長	伯爵	松平直之	副委員長	子爵	樋口誠康
委員	子爵	大河内正敏	同	男爵	村木内雅美
同	男爵	太秦供康	同	男爵	山内長人
同			同		
出席國務大臣		佐藤友右衛門			

○大正五年一月二十日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

出席政府委員

東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ニ關スル法律案特別委員會

開會 午前十時十九分

○委員長伯爵松平直之 開會ヲ宣告ス

(參照) 二月一日

東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ニ關スル法律案

東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本ハ漸次増加シ各參百五十拾萬圓トス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵松平直之 散會ヲ命ス

○散會 午後零時七分

第二回 大正五年二月一日

出席委員

委員長	伯爵	松平直之	副委員長	子爵	樋口誠康
委員	子爵	大河内正敏	同	男爵	村木内雅美
同	男爵	太秦供康	同	男爵	山内長人
同	男爵	德川一厚	同		
					佐藤友右衛門

同 美馬儀一郎

出席政府委員

太 泰 羽 泉

山 内 其 人

委員 子爵

大 河 内 五 郎

隈 木 德 三

委員 子爵

陸軍一等主計正 其 子 爵

廣 瀬 正 徳

開會 午後一時十二分

○委員長伯爵松平直之日開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵松平直之ヲ散會ヲ命ス

○委員其散會 午後二時二十九分

(附記)

同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ニ關スル法律案 萬圓ノ右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月一日

○委員長伯爵松平直之 開會ノ宣言ス

右特別委員長

開會 午後十時十五分

伯爵 松 平 直 之

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 松 平 直 之 印

副委員長 子爵 樋 口 誠 康 印

出陣政府委員
 閣議 午後一時十二分
 ○委員長伯耆守正之ヲ開會ヲ宣佈ス
 ○委員長伯耆守正之ヲ散會ヲ命ジ
 散會 午後二時三十分
 (附記) 同日議長並委員長ノ報告左ノ如ク
 東京砲兵工廠及大阪砲兵工廠ノ据置運轉資本増加ニ關スル法律案
 右可決スルニ決シテ其ノ議決セリ及報告ス
 大正五年二月一日
 副委員長 千賀 誠
 委員 長 伯耆 守正
 委員 長 伯耆 守正
 委員 長 伯耆 守正

大正三年臨時事件ノ經費支辨ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月十七日議長ノ指名ヲ以テ大正三年臨時事件ノ經費支辨ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

出陣閣議大臣

同 田中 馮 太 浪

同 子爵 井上 匡 四 郎

同 伯爵 正 親 町 實 正

本議委員 伯耆 守正

同 前 田 守 正 名

同 村上 敬 次 郎

同 仲 小 路 廉

同 石 井 省 一 郎

同 田 中 源 太 郎

同 江 原 國 素 六

同 木 村 誓 太 郎

同 木 村 誓 太 郎

○大正五年委員長及副委員長選舉ニ關スル法律案特別委員會

○大正五年一月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	正親町實正
副委員長	子爵	井上匡四郎

會議

第一回 大正五年一月二十六日

出席委員

委員長	伯爵	正親町實正	副委員長子爵	井上匡四郎
委員	仲小路廉	同	石井省五郎	
同	田中源太郎	同	江原國素六	
出席國務大臣		前副	五縣西實五	

大藏大臣

武富時敏

○大五出席政府委員日籍委員井上匡四郎大五三平副委員長大五三平開會中前時四十五分

委員數

大藏省主計局長

市來乙彦

○委員長伯爵正親町實正 開會ヲ宣告ス

(參照)

出大正三年臨時事件ノ經費支辨ニ關スル法律案

大正三年臨時事件ノ經費支辨ノ爲政府ハ特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ又ハ借入金ヲ爲ス

コトヲ得

○委員附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵正親町實正 散會ヲ命ス

散會 午後零時十一分

第二回 大正五年一月二十七日

出席委員

委員長	伯爵	正親町實正	副委員長子爵	井上匡四郎
委員	男爵	村上敬次郎	同	仲小路太廉

○委員長 伯爵 石井省一郎
 同 委員 江原素六
 出席國務大臣
 大藏大臣
 武富時敏
 市來乙彦

第二回會 大正五年一月二十九日
 出席政府委員 岩淵十一郎

○委員長 伯爵 江原素六
 大藏省主計局長
 市來乙彦

○委員長 伯爵 正親町實正
 開會ヲ宣告ス

○委員長 伯爵 正親町實正
 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十四分

第三回 大正五年一月二十九日、臨時委員會ニ關スル資金ニ關スル法律案
 出席委員 伯爵 正親町實正
 副委員長 子爵 井上匡四郎
 委員 伯爵 仲會小官路、廉

○委員長 伯爵 仲會小官路
 同 委員 廉
 同 委員 石井省一郎

出席國務大臣 江原素六
 同 木村誓太郎

出席政府委員 大藏大臣 武富時敏

出席政府委員

○委員長 伯爵 正親町實正
 開會ヲ宣告ス

○委員長 伯爵 正親町實正
 散會ヲ命ス

散會 午前十時四十三分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正三年臨時事件ノ經費支辨ニ關スル法律案 大藏省主計局長 市來乙彦

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也 委員 伯爵 江原素六
 同 委員 子爵 井上匡四郎
 同 委員 伯爵 仲會小官路、廉

大正五年一月二十九日 臨時委員會
 右特別委員長 伯爵 仲會小官路

大五五 貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 正親町實正印

副委員長 子爵 井上匡四郎印

（附屬）顧問 子爵 井上匡四郎印

議會 子爵 井上匡四郎印

○委員長 伯爵 正親町實正印

○委員長 子爵 井上匡四郎印

○委員 閣會 子爵 井上匡四郎印

議會 午後二時三十分

出淵 閣會 子爵 井上匡四郎印

出淵 閣會

出淵 閣會 子爵 井上匡四郎印

出淵 閣會 子爵 井上匡四郎印

鎌田勝太郎

井上匡四郎

先富和郎

市來 乙

大森 圭指風

大森 大羽

副委員長 子爵

正親町實正

朝鮮森林特別會計法廢止法律案特別委員會

朝鮮事業公債法中改正法律案特別委員會

（附記）右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

○委員選舉 田島竹之助

○大正五年一月十七日議長ノ指名ヲ以テ朝鮮森林特別會計法廢止法律案、朝鮮事業公債法中改正法律案特別委員ヲ選定スルハ左ノ如シ

伯爵 松浦厚

子爵 松平康民

子爵 豐岡圭資

子爵 杉溪重言長

子爵 目賀田種太郎

子爵 木内重四郎

子爵 田島竹之助

子爵 鎌田勝太郎

委員長及副委員長選舉

○大正五年二月七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

- | | | |
|--------|------|----|
| 福島文右衛門 | 委員長 | 男爵 |
| 目賀田種太郎 | 副委員長 | 男爵 |
| 木内重四郎 | 委員 | 男爵 |
| 豐岡圭資 | 委員 | 男爵 |
| 平泉 | 委員 | 男爵 |
| 前橋 | 委員 | 男爵 |
| 木内重四郎 | 委員 | 男爵 |

會議

第一回 大正五年二月八日

出席委員

委員長 男爵 目賀田種太郎

副委員長

木内重四郎

○大正五年二月七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員 男爵 目賀田種太郎

副委員長

木内重四郎

出席委員

○出席國務大臣 大藏大臣

武富時敏

○委員長男爵目賀田種太郎

大正五年二月八日

朝鮮總督府總務局長 伯爵 兒玉秀雄

○委員長男爵目賀田種太郎

(參照)

朝鮮森林特別會計法廢止法律案

朝鮮森林特別會計法ハ大正四年度限り之ヲ廢止ス

朝鮮森林特別會計ニ屬スル現金ハ朝鮮總督府特別會計ノ歳入ニ繰入レ其ノ收入支出ノ未濟額ハ

之ヲ同特別會計ニ移スヘシ

朝鮮事業公債法中改正法律案

朝鮮事業公債法中左ノ通改正ス

「五千六百萬圓」ヲ「八千四百萬圓」ニ改ム

○委員長男爵目賀田種太郎

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 公本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長男爵目賀田種太郎 散會ヲ命ス

散會 午後二時十八分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

朝鮮森林特別會計法廢止法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月八日

朝鮮森林特別會計法廢止法律案

右特別委員長

朝鮮森林特別會計法廢止法律案

男爵

目賀田種太郎

(參照) 貴族院議長公爵徳川家達殿

○委員朝鮮事業公債法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月八日

朝鮮森林特別會計法廢止法律案

右特別委員長

男爵

目賀田種太郎

男爵 目賀田種太郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

○大正五年一月十七日議長ノ指名ヲ以テ假令議院中

委員長

男爵

目賀田種太郎印

副委員長

木内重四郎印

○委員長及副委員長選舉
 委員長 木内重四郎
 副委員長 目實田麻太郎
 大正五年二月八日

- 右特別委員長
 委員長 木内重四郎
 副委員長 目實田麻太郎
 委員 目實田麻太郎
 委員 目實田麻太郎

假置場法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年一月十七日議長ノ指名ヲ以テ假置場法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- 出部知事委員 侯爵 德川義親
 子爵 松平承
 子爵 榎本武憲
 男爵 藤大路親春
 男爵 島津久賢
 男爵 東郷安
 室田義文
 依田仙右衛門
 高崎三重郎

委員長及副委員長選舉

○大正五年一月十九日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

- 委員長 木内重四郎
 副委員長 目實田麻太郎

○大正五年一月十九日委員會議
委員長 侯爵 德川 義親
副委員長 男爵 東 郷 安

會議

第一回 大正五年一月十九日

出席委員

委員長	侯爵 德川 義親	副委員長	男爵 東 郷 安
委員	子爵 松平 秉承	同	子爵 榎本 武憲
同	男爵 島津 久賢	同	室 木田 義文
同	依田 仙右衛門	同	高崎 三重郎
出席政府委員		大藏省副參政官	紫 安 新 九 郎

○大正五年一月十九日委員會議
開會 午前十時二十分

○委員長侯爵德川義親開會ヲ宣告ス

(參照)

假置場法中改正法律案

○假置場法中左ノ通改正ス
○第三條 假置場ニ於テハ外國貨物ノ改装仕分其ノ他ノ手入ヲ爲シ若ハ之ニ加工シ又ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲スコトヲ得物品ノ混合ハ之ヲ製造ト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ內國貨物ヲ使用シ又ハ之カ爲內國貨物ヲ藏置スルコトヲ得

加工又ハ製造ヲ爲スコトヲ得ヘキ假置場及其ノ假置場ニ於テ加工又ハ製造ヲ爲スコトヲ得ヘ

キ貨物ノ種類ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 加工又ハ製造ヲ爲ス假置場ニ於テハ大藏大臣ノ認許ヲ得テ內國貨物ニ加工シ、之ヲ原料トシテ製造ヲ爲シ之カ爲內國貨物ヲ藏置シ又ハ其ノ製品ヲ藏置スルコトヲ得物品ノ混合ハ

之ヲ製造ト看做ス

前項ノ場合ニ於テハ外國貨物ヲ使用スルコトヲ得

第四條ノ二 第三條第二項ノ規定ニ依リ內國貨物ヲ使用シ又ハ第四條第二項ノ規定ニ依リ外國貨物ヲ使用シタル貨物ハ之ヲ外國貨物トス

第十二條中「輸入、」ヲ「輸入、輸出、」ニ改ム

第十三條ノ二 私設假置場ニ藏置シタル貨物紛失シタルトキハ之ヲ輸入シタルモノト看做シ假置場ノ特許ヲ受ケタル者ヨリ其ノ輸入税ヲ徵收ス

第十四條中「前項ノ期間内」ヲ「前項ノ指定期間内」ニ改メ同條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ前假置場ノ業務ヲ引繼ク爲特許消滅後一月内ニ假置場私設ノ特許ヲ出願スル者アルトキ

ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條中「第三條第一項若ハ第四條第一項、第二項」ヲ「第三條第一項、第二項若ハ第四條」ニ

改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

- 委員侯爵徳川義親 政府委員ニ對シ本案提出ノ理由ヲ説明アラムコトヲ求ム
- 政府委員松本重威 假置場ハ外國貨物ヲ假ニ藏置スル所ニテ貨物ノ加工又ハ製造ヲ爲スヲ目的トシ輸出貿易獎勵ノ爲ニ設ケラレタルモノナリ而シテ從來假置場内ニ於テ加工製造ヲ爲スヲ得ル貨物ハ外國貨物ニ限ラレタリ即内地ニ産出セル貨物ノミヲ原料トスル加工製造ヲ認メス然ル

- ニ之ヲ實際ノ狀況ニ徴スルニ假置場ニテ加工製造シタル貨物ハ外國ニ輸出スル外内地ニ引取リ販賣スル方便宜ナルコトアリ斯カル場合ニハ其ノ製品ニ對シ輸入税ヲ納付セサルヘカラス是レ營業者ノ苦痛トスル所ナリ依テ營業者ハ此ノ苦痛ヲ避ケムカ爲ニハ外國ニ輸出スヘキ貨物ト内國ノ需用ニ應スヘキ貨物トハ工場ヲ別ニシテ製作セサルヘカラサルニ至ル斯ノ如キハ至難ノ事ナルカ故ニ茲ニ假置場法ヲ改正シ假置場ニ於テ併セテ内地向テ貨物ノ製造ヲモ可能ナラシメム
- テ取テ現行法ト異ナラス第四條ヲ改ムル結果法文ノ體裁ヲ改ムルニ過キサルナリ本案中主要ノ點ハ第四條第一項ナリ以上ノ外説明ハ不十分ナル點ハ貴問ニ應ジテ答辯スヘシ

- 委員室田義文 明治四十五年假置場法ノ制定セラレシヨリ以來假置場ニ於テ行ハレタル貨物ノ加工及輸出ノ成績如何

- 政府委員松本重威 假置場ヨリ輸出シタル貨物ハ明ニ調査セラレザルモ其ノ内譯ハ不明ナリ

- 委員室田義文 假置場ニ藏置スル貨物ノ種類如何

- 政府委員松本重威 其ノ種類極メテ多シ就中重要ナルモノハ大豆ナリ其ノ他食料品革皮油藥品染料布帛機械陶磁器等種種アリ

- 委員室田義文 然ラハ假置場内ニ油ヲ搾取スル工場ヲモ設クルコトヲ得ルカ
- 政府委員松本重威 然リ工場即假置場ナルカ如キ現況ナリ而シテ其ノ設置ノ箇所ハ必シモ税關構内ニ限定セラレス又私設ノ假置場ヲモ認ム現ニ其ノ數官設ノモノヨリ多シ
- 委員室田義文 假置場指定地ノ中東京市田町トアルモノハ何レノ地點ニテ其ノ假置場ニテハ何ヲ製作スルカ
- 政府委員紫安新九郎 芝區田町ヲ謂フ此ノ假置場ノ作業ノ種類ハ菓子及藥用菓子ナリ而シテ藏置貨物ハ右製品、原料用品及包装材料ナリ森永製菓株式會社即是ナリ
- 委員室田義文 前例ノ場合ニ於テ原料タル砂糖ニハ課税シ更ニ之カ製品ヲ輸出スルニ際シテ戻税ヲ下付スルノ手續ヲ取ルヤ
- 政府委員松本重威 輸入ノ砂糖ニハ課税セス之ニ加工シテ輸出スル場合ニモ單ニ其ノ輸出手續ヲ爲スノミ何等課税ノ關係ヲ生セス
- 委員室田義文 本邦ニ於テハ「ハンブルヒ」ニ於ケルカ如ク總テノ種類ノ貨物ヲ加工製造スルモノ存在セサルヤ
- 政府委員松本重威 我國ニ於テハ未「ハンブルヒ」及「コッペンハーゲン」等ニ於ケルカ如ク所謂

- 自由區域ナルモノノ施設ナシ
- 委員室田義文 衆議院ノ委員會ニ於ケル政府委員ノ説明ニ依レハ現行法ニ於テハ假置場ニ於テスル貨物ノ加工製造ニハ内國產ノ物ヲ混用スルヲ得サルカ如ク述ヘラレタルモ果シテ如何
- 政府委員松本重威 内國ニテ生産セラレタル貨物ヲ使用スルハ從前ニテモ許サレタル所ナリ改正案ハ輸入貨物ニ關稅ヲ拂ヒタル上形式上内國貨物トシテ之ヲ原料トスルコトヲ得ルナリ又内國貨物ノミヲ原料トスルモ妨ナシ
- 委員室田義文 官設假置場ナルモノハ今日存在セサルカ私立ノ工場等ヲ指定シテ假置場トナシタルモノノミナリヤ
- 政府委員松本重威 大體ニ於テ然リ但シ現在設置セラレタルモノノ總數三十六箇所中官設ノモノ五、私設ノモノ三十一箇所アリ官設ノモノニ於テハ單ニ包裝取換ノ如キ簡易ナル事ヲ爲スモ過キス
- 委員室田義文 官設ノ主ナルモノノ所在如何
- 政府委員松本重威 横濱神戸及長崎ナリ
- 委員男爵東郷安 假置場法制定以來ノ成績ヲ示ス爲表ヲ作りテ提出アラムコトヲ望ム現存ノモ

ノノミナラス既ニ存シ現在止メタルモノヲモ網羅セラレムコトヲ希フ尙現存スルモノ三十一箇

所中京都市下京區本町ニ在ルモノニ付説明セラレタシ

○政府委員紫安新九郎 多田繁二郎ノ經營ニ係ル石鹼製造改装仕分場是ナリ

○政府委員松本重威 東郷男爵ノ要求ニ係ル事項ハ調査ノ上提示スヘシ而シテ從來設立セラレタル假置場ニシテ既ニ廢止セラレタルモノ十箇所アリ其ノ爲ス所ハ帽子、圓罐及角罐、衣服、大豆糟、砂糖ノ製造及雜業ナリ

○委員男爵東郷安 大豆ノ加工ハ假置場ニ於テ之ヲ爲セハ多大ノ利益アリ爲ニ曾テ關稅法ヲ改正セル例アリ本案モ亦此等ノコトニ關係アリヤ

○政府委員松本重威 必シモ然ラス

○委員男爵東郷安 元來假置場ナルモノハ仲次貿易ノ獎勵ニ關係アリ我假置場ノ仲次貿易ニ對スル成績如何又假置場内ノ製造工業ニ因リテ生スル副産物ニ關シ何等カノ研究アリシヤ此ノ副産物ハ之ヲ内地ニ賣出ストキハ關稅ヲ課セラルル故引キ合ハス政府ニ於テ斯カル點ニ付相當ナル救濟方法ヲ講セラレムコトヲ希望ス

○政府委員松本重威 假置場ト仲次貿易トノ關係ニ付テハ調査ノ上報告スヘシ假置場ニ於ケル工

業ノ副産物ノ賣出シニ關スル件モ尙研究スヘシ

○委員男爵東郷安 本案ニ依ル改正ノ結果假置場ノ増設ヲ見ルニ至ラハ之カ監督ハ從來ノ人員ヲ以テシテハ支障ヲ生スルニ至ルヘク從テ需用ニ對スル人員ノ供給困難トナルヘシ此ノ點ニ關シテハ如何ニスルヤ

○政府委員松本重威 監督人員ノ需用ニ對シテモ適當ニ供給ノ道ヲ計ルヘシ

○委員男爵東郷安 取締上ニ關シ尙一ノ疑アリ砂糖ニ關スル假置場例ヘハ「ミルク、キヤラメル」製作場ニ於テハ從來内地向ノモノト外國向ノモノトヲ別別ノ工場ニ於テ生産シタル爲監督周到ナルヲ得タルモ本案ノ結果是等ノ工場ヲ併合スルニ至ラハ取締上ニ支障ヲ來スコトナキヤ

○政府委員松本重威 從來ニ比シ幾分監督上困難アラムモ制度トシテハ差支ナキモノト認ム

○委員男爵東郷安 假置場設置ノ地域ニ付テハ自由ナリヤ

○政府委員松本重威 然リ

○委員室田義文 東郷男爵ノ要求セラレタル調査事項ノ報告ヲ得タル後本案ヲ討議ニ付セラルルヤ

○委員男爵東郷安 本員ハ直ニ討論ノ上採決アラムコトヲ望ム

○委員室田義文 本案ニ賛成ス

○委員子爵榎本武憲 本案ニ賛成ス

○委員長侯爵徳川義親 本案ハ可決セラレタルモノト認メ異議ナキヤヲ諮フ

○委員異議ナシ

○委員長侯爵徳川義親 本案ハ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

○委員散會 午前十一時

(附記)

同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

假置場法中改正法律案 委員長ノ報告左ノ如シ

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

○大正五年一月十九日 閣議ノ結果 委員長ノ報告ニ關スル

○委員長 侯爵 徳川 義親

○委員 子爵 榎本 武憲

○委員 侯爵 徳川 義親

○委員 侯爵 徳川 義親

○委員 侯爵 徳川 義親

副委員長 男爵 東 郷 安印

鐵道敷設法中改正法律案(政第十六號)特別委員會

委員選舉

大園 榮 三 順

○大正五年一月十七日議長ノ指名ヲ以テ鐵道敷設法中改正法律案(政第十六號)特別委員ヲ選定スル

コト左ノ如シ

委員 男爵 吉 井 幸 藏

委員 子爵 野 村 益 三

委員 男爵 關 義 臣

委員 平井 晴 二 郎

委員 古 市 公 威

委員 男爵 安 場 末 喜

委員 男爵 福 原 俊 丸

委員 山之内 二 次

委員 麻 生 太 吉

○大正 委員長及副委員長選舉

○大正五年一月二十一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵 吉井 幸藏
副委員長	平井晴二郎

會議

第一回 大正五年一月二十一日

出席委員

委員長	伯爵 吉井 幸藏	副委員長	平井晴二郎
委員	子爵 野村 益三	同	男爵 關 義 臣
同	古市 公 威	同	男爵 安 場 末 喜
同	男爵 福原 俊 九	同	山之内 次

出席政府委員

委員數

鐵道院理事

大園 榮 三 郎

○大正五年一月二十一日午前十二時二十分(鐵道院)特別委員會

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

(參照)

鐵道敷設法中改正法律案(政第十六號)

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第七條第一項第十號中「船橋ヨリ佐倉ニ至ル鐵道及」ヲ削リ同項第二十四號中「大分縣下宇佐ヨ

リ佐伯ニ至ル鐵道及宮崎縣下宮崎ヨリ鹿兒島縣下吉松ニ至ル鐵道」ヲ「大分縣下宇佐ヨリ宮崎縣

下宮崎ヲ經テ鹿兒島縣下吉松ニ至ル鐵道」ニ改メ同項第二十二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

○第一 四國豫定線ノ内香川縣下琴平ヨリ高知縣下高知ヲ經テ須崎ニ至ル鐵道中高知縣下山田ヨ

リ高知ヨリ須崎ニ至ル鐵道

○委員男爵關義臣 從來第一期鐵道トシテ掲クルモノヲ削除シ新ニ他ノ線ヲ第一期鐵道中ニ加フ

ルノ趣旨ヲ問フニ委員答ハ「本法案提出ノ理由ハ大體ヲ説明セラレムコトヲ求ム其ノ趣旨ハ

○委員伯爵吉井幸藏 政府委員ヨリ本案提出ノ理由ハ大體ヲ説明セラレムコトヲ求ム其ノ趣旨ハ

○政府委員添田壽一 鐵道敷設法ニハ鐵道ノ種類ヲ規定ス即豫定線路及第一期鐵道是ナリ而シテ

本案ヲ以テ豫定線路タル山田高知須崎間ト宮崎佐伯間ト第一期鐵道ニ追加スル理由ハ高知縣

- 鐵道ノ恩典ニ浴セサルニ交通ノ狀況ハ之カ敷設ノ必要ヲ感スルニ至レルヲ以テナリ又佐伯宮崎間ノ鐵道ハ九州背面地方ニ於ケル交通ノ大動脈トモ謂フヘキモノニシテ之カ敷設ナキニ於テハ他ノ九州方面ノ鐵道モ其ノ效用ヲ十分ニ發揮シ得サルカ故ナリ次ニ佐倉船橋間ハ現在ニ於テハ交通機關相當ニ發達セルヲ以テ左程ニ敷設ノ必要ヲ認メス且當局者ハ一地方ノミノ交通機關ノ施設ニ專ナルヲ得ス全國ヲ通シテ比較的ニ急設ヲ要スルモノニカヲ注カムト欲ス
- 委員男爵關義臣 船橋佐倉間ノ鐵道ノ哩數及建設費用ヲ問フ
- 政府委員添田壽一 船橋佐倉間ノ距離ハ十四哩半ニシテ之カ敷設ニ要スル費用ハ單線ニテハ百九十八萬圓ヲ複線ニテハ二百五十萬圓以上ヲ要スル見込ナリキ
- 委員子爵野村益三 船橋佐倉間ノ外他ニ第一期線ヨリ削除スヘキ線路ナキヤ
- 政府委員添田壽一 現在ニ於テハ之ナシ
- 委員子爵野村益三 第一期線路ニ屬スルモノニシテ現ニ建設工事ヲ延期シ又ハ中止セルモノアリヤ
- 政府委員添田壽一 無シ
- 委員子爵野村益三 既ニ第一期線ニ屬スル線路ヲ單ニ便宜ノ如何ヲ理由トシテ削除スルノ可否

- 如何且同線ハ建設費用モ僅ニ二百萬圓ニシテ第一期線ニ屬スルモノノ中工事ノ未著手ノモノハ此ノ一線アルノミ依テ寧之ヲ敷設スルヲ可トセスヤ
- 政府委員添田壽一 二百萬圓ノ經費ハ決シテ少額ニアラス殊ニ現在ノ如キ鐵道ノ收入減少セル場合ニ於テハ百萬圓ト雖最重要ノ關係ヲ有ス而シテ此ノ線路ノ敷設ニシテ必要闕クヘカラサルモノナラハ敷設スヘキモノナレトモ既ニ現在ノ鐵道ニ依ルモ船橋ヨリ千葉ヲ經由シテ佐倉ニ至ルニハ僅ニ約五哩ノ差アルニ過キサレハ金額ニ於テ二百萬圓ノ餘裕アラハ之ヲ他ノ急設ヲ要スルモノニ使用セムコトヲ望マサルヲ得ス元來本線ヲ第一期線ニ入レシ理由ニ付テハ予モ近頃就職シタル者ナレハ其ノ内情ノ詳細ヲ熟知セサルモ表面上ノ理由ニ基キ直通トスルカ便宜ナリト謂フカ如キ單純ナル理由ニ過キサリシモノト思惟ス
- 委員山之内一次 最初佐倉船橋間ノ鐵道ヲ第一期線ニ繰入レシハ當時政府ハ之カ敷設ノ必要アリト認メシニ由ルモノナラム然ルニ今回之ヲ第二期線中ヨリ削除セムトスルハ當時ノ詮索不十分ナリト認メシ爲ナリヤ或ハ其ノ後ニ至リテ交通狀態ノ變化アリシ爲ナリヤ
- 政府委員添田壽一 佐倉船橋間ヲ第一期線ニ繰入ルルコトトセシ明治四十三年ノ頃ト現在トハ多少交通狀態ニモ變化ヲ來シ居ルコトハ事實ナリ

○委員男爵安場末喜 政府委員ノ説明ニ依レハ高知縣下ハ鐵道ノ恩典ニ浴セザリシ爲今同縣下ノ山田高知須崎間ヲ第一期線ニ繰入ルトノコトナルカ此ノ鐵道ハ阿波ヲ經テ讚岐ノ多度津ノ方面ニ連絡セハ非常ニ便利ヲ得ヘキカ如シ讚岐ノ方面ヨリモ同時ニ敷設スルコト能ハサルヤ

○政府委員添田壽一 四國ノ中央山脈ハ高峻ナルヲ以テ鐵道工事モ亦隨テ甚困難ナリ且經費上ノ關係モアレハ將來交通状態ノ上ヨリ之カ敷設ノ必要増加シ而シテ經費ノ支出モ許スコトナラハ兎ニ角目下ノ所ニテハ山田高知須崎間ニ止メ置カムト欲ス

○委員山之内一次 政府委員ノ辯明ニ依レハ四國地方ハ鐵道ノ恩典ニ浴スルコト少キヲ以テ山田高知須崎間ヲ他ニ先シテ敷設スト謂フ是レ一地方ニ對スル恩典ノ爲ニセラルルモノニアラスヤ然ルニ幹線ノ連絡ヲ保ツヲ前提トシ地方ノ大勢ニ關係アルモノヲ先ニ敷設スルノ方針ナリト謂ハルルハ二者矛盾スルニ非スヤ

○政府委員添田壽一 鐵道ノ敷設ハ交通系統ノ脈絡ヲ通スルヲ以テ主タル目的トスルヲ以テ土地方ニ恩典ヲ施シ一部分ニ私スルノ不可ナルハ予ノ深ク信スル所ナリ然ルニ本案ノ目的トスル四國ノ鐵道ハ當ニ一地方ニ對スル恩典タルノミナラス全體ノ交通機關ノ整備上之カ敷設ヲ必要トスルモノアリ

○委員子爵野村益三 九州ハ八代川内間ノ鐵道モ亦必要ノ程度ヨリ謂ヘハ四國ノ山田高知須崎間ノ線又ハ佐伯宮崎間ト同一ナリト思ハル政府委員ノ所見如何

○政府委員添田壽一 八代川内間ノ線モ亦之カ完成ヲ見ルニ至レハ利便ヲ増進スルコト論ヲ俟タスト雖兩地ノ間ニハ既ニ鹿兒島ヲ經由スル線路アレハ佐倉船橋間ト同様ニシテ佐伯宮崎間ノ鐵道ノ如ク急設ノ要アリト認メ難シ

○委員子爵野村益三 然ラハ八代川内間ハ當分第一期線ニ入レザルモノト思料シテ可ナリヤ

○政府委員添田壽一 鐵道敷設ノ計畫ハ交通状態ノ如何ニ依リテ變更スヘキモノニシテ交通状態ハ時ニ依リ變化アルヲ免レヌ且之カ敷設ハ鐵道經濟ノ問題ナリ而シテ今日ノ如キ状態ニ在リテ到底満足ヲ得ルコト能ハスサレハ斯ノ如キハ交通ノ状態ト鐵道經濟ノ發達トニ依リテ決スヘキ問題ナリト信ス

○委員男爵福原俊九 鐵道ノ敷設ハ緩急ヲ計リテ行ハルヘキモノナリ而シテ高知須崎間ハ海岸ニ近接スルヲ以テ山田迄敷設スルモ材料等ノ運搬ニ關シテハ海運ノ便ニ依ルモノナリサレハ此ノ鐵道ハ四國北海岸ト連絡シテ初メテ鐵道經濟ニ適スルモノト思ハル政府委員ノ意見如何

○政府委員添田壽一 須崎高知間ヲ敷設スルノミニテハ十分ノ效果ナシ故ニ四國ノ横斷ヲ必要ト

スルハ勿論ナレト前述ノ如ク交通ノ現狀經費ノ關係等ヨリ打算シテ此ノ計畫ニ止メタリ而シテ交通狀態トハ貨物ノ數量、乗客ノ多寡等ヲ指スモノニシテ軍事上ノ關係其ノ他ノ關係即大體ノ經濟關係ノ如キ間接ノ事由ヲモ考慮スルヲ要ス又現在ノ線路ノ改良モ必要ナリ或ハ利益ノ少キ線路ヲ延長スルトキハ收益ヲ減スルヲ以テ財力ニモ影響ヲ及ホスヘシ依テ鐵道ノ敷設ヲ決スルニハ先ツ斯カル種種ノ關係ニ依リ打算セサルヘカラス

○委員男爵福原俊丸 山田ヨリ起リテ四國ヲ橫斷スルノ線ハ何時頃敷設ニ著手スルカ不明ナリヤ

○政府委員添田壽一 政府モ其ノ必要ヲ認め研究ヲ怠ラサルナリ

○委員子爵野村益三 既設ノ電氣鐵道又ハ輕便鐵道ニ近ク又ハ之ト並行シテ鐵道線路ヲ敷設スル場合アルヘシ然ラハ是等ノ電氣鐵道又ハ輕便鐵道ニ對シテハ如何ナル措置ヲ取ラムトスルヤ

○政府委員添田壽一 今回敷設ノ線路カ輕便鐵道ト競争線トナルトキハ豫メ交付シアル命令ニ依リテ之ヲ買收スルコトト爲スヘシ尙電氣鐵道ニ付テハ他ノ政府委員ヨリ答辯スヘシ

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス

散會 午後零時五分

第二回 大正五年二月二十四日 川内閣、海軍、文部、農林、陸軍、司法、內務、外務、鐵道、各委員、添田、壽一、野村、益三、吉井、幸藏、伯爵、關、義、同、丸、同、山之内、一次

出席委員 伯爵 關 義 同 丸 同 山之内 一次

委員長 伯爵 關 義 同 丸 同 山之内 一次

委員 子爵 野村 益三 同 伯爵 關 義 同 丸 同 山之内 一次

出席委員外議員 日高 榮三郎

出席政府委員 鐵道院總裁 添田 壽一 鐵道院副總裁 古川 阪次郎 鐵道院理事 森本 邦治郎 鐵道院理事 大園 榮三郎

開會 午前十時二十分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

○委員伯爵吉井幸藏 佐伯宮崎間、佐伯臼杵間及琴平池田須崎間ノ哩數、建設費並竣工期ヲ問フ

○政府委員古川阪次郎 宮崎佐伯間ハ八十八哩、建設費千五百八十四萬圓ニシテ大正十五年度ニ
 委竣工ノ豫定ナリ即十一年間ニ互ルモノトス琴平池田須崎間ハ九十三哩建設費二千八百七十五萬
 圓ニシテ其ノ中山田高知須崎間ハ三十四哩ニシテ建設費三百八十五萬圓弱ナリ此ノ線路ノ竣工
 期ハ大正十年度ノ豫定ニシテ六年間ニ互ルモノナリ

○委員男爵關義臣 佐伯臼杵間ハ目下工事中ナリ又宮崎山ノ口間モ然リヤ本
 ○政府委員古川阪次郎 佐伯臼杵間ハ目下工事中ナリ又宮崎清武間ハ完成シ清武山ノ口間ハ工事
 中ニ屬ス

○委員伯爵吉井幸藏 今回第一期線ニ繰入ルヘキ線路ノ大正五年度ニ於ケル工事費ノ豫定額ヲ問
 フ

○政府委員吉川阪次郎 大正五年度ノ工事費豫定額ハ宮崎佐伯間十五萬圓ニシテ山田高知須崎間
 二十萬圓ナリ

○委員伯爵吉井幸藏 第一期鐵道工事ハ鐵道敷設法ニ依レハ二十五箇年ヲ以テ竣工スルヲ要スル
 旨ノ規定アリ第一期線ヲ定メタル當時既ニ成效期限ヲ二十五箇年ト爲シタルヲ以テ餘ス所ノ期
 間幾何モナシ然ルニ今回提出ノモノハ成效期間六年ノモノ及十一年ノモノナルヲ以テ此ノ二十

五年ナル期間ハ之ヲ改正スルノ要ナキヤ

○政府委員大園榮三郎 鐵道敷設法ハ第一期線ハ起工ノ年ヨリ二十五箇年内ニ成效スヘキモノト
 規定スルモ今回提出ノモノハ起工ノ時ヨリ二十五箇年ヲ要セシテ成效ス隨テ法律改正ノ要ナ
 シ

○政府委員大園榮三郎 野村子爵ノ前回ノ質問ニ答フヘシ宮崎妻間ニ輕便鐵道アリ之ニ對シテハ
 既ニ命令ヲ發シアリテ將來政府ニ於テ買收スルコトヲ得ルコトニナリ居レリ故ニ今回ノ線ヲ敷
 設スルニ當リテ並行線又ハ競争線トナルニ於テハ之ヲ買收スルコトトナルヘシ又土佐ニ於ケル
 電氣鐵道ニ關シテハ斯ノ如キ命令ヲ發セサリシヲ以テ協議ニ依ルノ外ナシ

○委員男爵福原俊丸 土佐電氣鐵道株式會社ノ軌道ハ何處ヨリ何處迄敷設シテアリヤ及其ノ營業狀
 態如何

○政府委員大園榮三郎 土佐電氣鐵道株式會社ノ軌道ハ伊野高知後免間ニ敷設シ延長約十六哩ニ
 達ス明治三十三年六月ヨリ同四十三年十月迄十回ニ分チテ特許ヲ出願シ明治三十七年四月ヨリ
 同四十四年八月迄十六回ニ分チテ開通シタリ其ノ營業狀態ヲ述ブレハ建設費百三十四萬圓ニシ
 テ大正三年ニ於ケル收入十九萬九千圓支出十二萬八千圓差引純益七萬千圓、約八分五厘ノ配當

ヲ爲セリ但シ是ハ電燈收入モ含ミ居ルナリ
 ○委員男爵福原俊丸 四國ノ南北海岸ヲ通スル線路ハ何時敷設セラルルヤ不明ニシテ單ニ山田須崎間ヲ敷設スルノミニテハ敷設セラルヘキ地方ノミハ便利ヲ享クルナラムモ四國全體ノ連絡ヲ取ル能ハス然ラハ寧暫ク現在ノ電氣鐵道ヲ整備スルノ程度ニ止メ置クモ該地方ノ交通上ニハ支障ナキニ非スヤ

○政府委員古川阪次郎 鐵道ヲ第一期線ニ入ルヘキヤノ選擇ノ標準ハ獨經濟上ノ點ノミヲ考慮シテ爲スモノニアラス或ハ軍事上其ノ他ノ見地ヨリ多少經濟ヲ犧牲ニ供スルコトアルヲ免レス而シテ山田高知須崎間ハ既ニ豫定線ノ一部タルモノナリ茲ニ之ヲ第一期線ニ線入レムトスルハ最初ヨリ難工事ニシテ多クノ費用ヲ要スルモノヲ敷設スルヨリモ比較的容易ナルモノヲ先ニスル方針ナリト認メタレハナリ
 ○委員男爵福原俊丸 既ニ高知電氣鐵道ノ存スル以上、山田池田間ヲ連結スルニ非サレハ山田須崎間ノミヲ敷設スルモ大ナル實益ナシト思フ政府委員ノ所見如何
 ○政府委員古川阪次郎 琴平池田山田須崎ヲ連結スルニハ二千八百餘萬圓ノ經費ヲ要スルノミナラス其ノ工事ハ困難ノ箇所アリテ容易ニ竣成スルノ見込ナシ今ヨリ其ノ一部ヲ敷設スルモ遲キ

程ナリ而シテ先ツ山田須崎間ヲ敷設セハ山田池田間ハ今後ニ於テ如何ニカ敷設セラルヘシ

- 委員男爵關義臣 山田池田間ノ經費及竣工期ヲ問フ
- 政府委員古川阪次郎 山田池田間ハ二千四百萬圓以上ノ經費ヲ要ス其ノ竣工期ハ今ヨリ明言スル能ハス
- 委員長伯爵吉井幸藏 委員外議員日高榮三郎君ニ對シ質疑ヲ爲スノ許可ヲ與フヘキヤヲ諮フ
- 委員長伯爵吉井幸藏 日高議員ニ發言ヲ許可ス
- 委員外議員日高榮三郎 佐伯宮崎間ノ鐵道ヲ完成スレハ九州東海岸地方ノ富源ヲ開クコト莫大ナルモノアリサレハ同地方人民ハ政府ニ此ノ計畫アルヲ聞キテ非常ニ喜ヒ居ルモ竣工期限ノ十一年ナルハ長キニ過クルノ憾アリ政府ハ之ヲ五六年間ニテ完成スルヲ得サルヤ
- 政府委員古川阪次郎 佐伯宮崎間鐵道ノ成效期限ハ十一年ナレトモ政府ニ於テモ亦一日モ早ク開通セムコトヲ希望ス唯資金ノ關係上速ニ完成スルヲ得サルハ遺憾ナリ若資金ノ餘裕ヲ生スルニ至ラハ此ノ年限ヨリ短キ期間ニ開通スヘシト信ス
- 委員外議員日高榮三郎 該鐵道ノ工事ハ宮崎ノ方面ノミヨリ進ムルモノナリヤ佐伯ノ方面ヨリ

- 毛進ムルコトトナルヤ
- 政府委員古川阪次郎 兩方面ヨリ進行スルコトトナレトモ第一著手トシテハ宮崎ヨリスル心算ナリ
- 委員男爵福原俊九 佐倉船橋間ヲ第一期鐵道ヨリ除クニ付テハ特殊ノ理由アリヤ
- 政府委員古川阪次郎 交通ノ状態ヨリ觀察スレハ同線ヲ第一期鐵道ニ繰入レタル當時ニ比シ現今左程ノ必要ヲ認メサルコトカ主タル理由ナリ其ノ他ニ何等ノ理由ナシ
- 委員山之内一次 八代川内間ハ海岸線ナリサレハ之ヲ避ケテ人吉線ヲ取ルコトトナリシハ當時ノ我國防ノ見地ヨリ決定セラレシナリ然レニ今日ノ實情ニ照セハ却テ海岸線ヲ取リシ方可ナリシカ如ク思ハルル程ナリ本委員會ニ於ケル政府委員ノ答辯ニ依レハ同線ハ佐倉船橋間ト齊シク何時工事ニ著手セラルルヤ不明ナルカ如シ果シテ然リヤ
- 政府委員古川阪次郎 八代川内間ハ將來敷設セラレスト謂フニアラス資金ノ關係ヨリ緩急ヲ計リ敷設スル心算ナリ
- 委員山之内一次 先日ノ添田鐵道院總裁ノ答辯ニ依レハ八代川内間ノ鐵道ヲ佐倉船橋間ト同一視セララルモノノ如シ予ハ之ヲ同視スヘキモノニ非スト認ム政府委員ノ所見如何

- 政府委員添田壽一 予カ前回述ヘシハ佐倉船橋間ニ於ケルト齊シク迂回線ナカラ既ニ他ニ交通機關アルカ故ニ之カ敷設ハ暫ク忍ハレタシト謂フノ意ナリ必要ノ程度カ船橋佐倉間ト同一ナリト認メタルニ非ス
- 委員山之内一次 將來八代川内間ノ鐵道ヲ第一期線ニ繰入ルルノ意思ナキモノト思ハル政府委員ノ意見如何
- 政府委員古川阪次郎 資金タニ調達スルヲ得ハ同線ハ無論第一期鐵道ニ入レルコトトナル
- 委員山之内一次 宮崎佐伯間ノ鐵道ト山田須崎間ノ鐵道トニ付各其ノ資金ニ對スル利益ノ割合如何兩者ハ殆同一ナリト見込ナリヤ
- 政府委員古川阪次郎 前者ハ後者ニ劣レリ
- 委員山之内一次 山田須崎間ノミヲ特ニ第一期鐵道ニ入ルルノ理由明ナラス幹線タルヘキモノハ他ノ幹線ト連絡シテ其ノ效用ヲ現スヘキモノナリ然ラハ山田池田間モ續イテ敷設セラルルコトトナルヤ此ノ點ニ付答辯ヲ求ム
- 政府委員古川阪次郎 山田須崎間ノ鐵道ノ敷設ハ經濟上及行政上ヨリ見テ以テ急務ト爲シ讚岐

○方面ト連絡スルコトヲ前提トシテ第一期線ニ繰入レタリ又ハ...

○委員山之内一次 然ラハ政府ハ大體ニ於テ山田池田間ヲモ續イテ敷設スルノ意思ヲ有スルヤ...

○政府委員古川阪次郎 資金タニ許スニ至ラハ其ノ意思ヲ有スルコト勿論ナリ...

○委員子爵野村益三 本員ハ樺太ニ於ケル鐵道ノ事ニ關シテ問ハント欲ス樺太ニハ現ニ僅ニ五十...

○六哩ノ鐵道アルニ過キス之カ爲交通ハ甚不便ナリ然ルニ現任樺太廳長官ハ銳意線路ノ調査ニ從...

○事セラルル由ナルカ實際東西海岸ニ沿フ線路ヲ敷設スルハ必要ナリ此ノ點ニ付鐵道院ニ於テハ...

○調査ヲ遂ケラレシヤ又翌年度ニ於テ敷設セラルヘキ哩數如何...

○政府委員古川阪次郎 樺太ニ於ケル鐵道ハ鐵道院ノ管轄外ニ屬ス且鐵道院ニテハ未調査セシコ...

○トナシ然レトモ樺太ノ鐵道ノ敷設ハ甚困難ナリト思フ...

○委員長伯爵吉井幸藏 他ニ質問ナキヤヲ諮フ...

○委員長伯爵吉井幸藏 本案ヲ表決ニ付ス...

○委員長伯爵吉井幸藏 散會ヲ命ス...

○可決...

散會 午前十一時五十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

鐵道敷設法中改正法律案(政第十六號)

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年一月二十四日

右特別委員長

伯爵 吉井 幸藏

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 吉井 幸藏印

副委員長 平井 晴二郎印

大正五年一月二十四日
 委員 廣田 弘毅 外務大臣
 委員 大谷 正 陸軍大臣
 委員 大隈 重信 海軍大臣
 委員 大藏 廣 大藏大臣
 委員 大島 正 農林大臣
 委員 大野 正 司法大臣
 委員 大野 正 文部大臣
 委員 大野 正 逓信大臣
 委員 大野 正 鐵道大臣
 委員 大野 正 勸業大臣
 委員 大野 正 陸軍大臣
 委員 大野 正 海軍大臣
 委員 大野 正 大藏大臣
 委員 大野 正 農林大臣
 委員 大野 正 司法大臣
 委員 大野 正 文部大臣
 委員 大野 正 逓信大臣
 委員 大野 正 鐵道大臣
 委員 大野 正 勸業大臣

郵便法中改正法律案特別委員會

鐵道船舶郵便法中改正法律案特別委員會

電信法中改正法律案特別委員會

海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正五年一月二十一日議長ノ指名ヲ以テ郵便法中改正法律案、鐵道船舶郵便法中改正法律案、電信法中改正法律案、海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如

- 侯爵 細川 護立
- 子爵 有馬 頼之
- 荒川 義太郎
- 小松 謙次郎
- 男爵 肝付 兼行

第十條ノ二 郵便ニ依ル取立金ハ拂渡其人他ノ處分ニ關シテハ之ヲ郵便爲替金トシ郵便爲替法ヲ適用ス

第十一條中「又ハ郵便ニ依ル取立金」ヲ削ル

第十五條 前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還付ヲ爲スコト能ハサルモノハ郵便官署

○委員ニ於テ之ヲ保管ス

保管ノ郵便物ニシテ有價物ニ非サルモノハ其ノ保管開始ノ日ヨリ三箇月内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ代金ヲ保管ス但シ賣却ニ要シタル費用ハ賣却代金ヲ以テ之ニ充ツ

有價物及賣却代金ハ郵便物ノ保管開始ノ日ヨリ一箇年内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ國庫ニ歸屬ス

第十六條 郵便官署ハ郵便物引受ノ際郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シタルモノアリト認

ムルトキハ差出人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人前項ノ開示ヲ拒ミタルトキハ其ノ郵便物ノ取扱ヲ拒絕ス

第十六條ノ二 郵便官署ハ其ノ取扱中ニ係ル郵便物ニシテ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反

シタルモノアリト認ムルトキハ差出人又ハ受取人ニ其ノ開示ヲ求ムルコトヲ得

差出人若ハ受取人前項ノ開示ヲ拒ミタルトキ又ハ差出人若ハ受取人ニ其ノ開示ヲ求ムルコト

能ハサルトキハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ其ノ郵便物ヲ開披スルコトヲ得

第二十條中「書狀」ヲ「信書」ニ改ム

第二十五條ノ末尾ニ「受取人不明其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ差出人ニ還付スル場合亦同シ」ヲ加フ

第二十八條 郵便、郵便爲替、郵便貯金、電信、電話、無線電信、無線電話、年金恩給支給、

國庫金受拂又ハ收入印紙賣捌ノ事務ニ關スル郵便物ハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコト

ヲ得

第三十二條中「又ハ郵便ニ依ル取立金」ヲ削ル

第三十六條中「損害」ヲ「郵便官署ノ賠償スヘキ損害」ニ改ム

第三十八條中「二箇年」ヲ「一箇年」ニ改ム

第四十條中「六箇月」ヲ「三箇月」ニ改ム

第四十一條 第二條ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役及千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十二條 何人ト雖第三條ノ場合ニ於テ郵便物ノ運送ヲ拒ミ又ハ其ノ運送ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條中「科料」ヲ「二十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十四條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ニ従事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四十五條 削除主筆大出、番字、ハ、郵便官署ニ於テ其ノ運送時ニ開封スルモノニ付

第四十六條中「五十圓以下ノ罰金」ヲ「五百圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム其ノ開示モ亦同シ

第四十七條 不法ニ郵便ニ關スル料金を免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

郵便事務ニ従事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 行使ノ目的ヲ以テ帝國政府若ハ郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金を表彰スヘキ證票ヲ偽造シ又ハ其ノ使用ノ痕跡ヲ除去シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

偽造、變造シ若ハ使用ノ痕跡ヲ除去シタル郵便切手其ノ他郵便料金を表彰スヘキ證票ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸入シ、人ニ交付シ若ハ其ノ交付ヲ受ケタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十九條 削除

第五十條 削除

第五十一條 削除

第五十二條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ニ於テハ同條ノ刑ニ處ス

第五十三條 郵便事務ニ従事スル者正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ爲サス又ハ之ヲ遅延セ

シメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 郵便事務ニ従事スル者重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十四條 郵便専用ノ物件又ハ現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ニ對シ損傷其ノ他郵便ノ障碍ヲ爲
 ルヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十五條 第四十一條、第四十四條、第四十七條、第四十八條、第五十二條及第五十四條ノ
 未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第四十八條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰
 金ニ處シ其ノ用ニ供シタル物ハ之ヲ沒收ス
 第五十五條ノ二若第四十八條ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ其ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス
 第五十五條ノ三 偽造、變造シ又ハ使用ノ痕跡ヲ除去シタル帝國政府又ハ郵便聯合條約國政府
 ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ何人ニ屬スルヲ問ハズ裁判ニ依リ沒
 收スル場合ノ外行政處分ヲ以テ之ヲ官沒ス
 官沒ニ關スル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 附則 則 罰金ニ處スル者ハ其ノ額ノ半以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ差出シタル郵便物、郵便ニ依ル取立金又ハ本法施行前ニ生シタル損害賠償ニ關シ
 テハ仍從前ノ例ニ依ル
 刑法施行法第二十六條第十號ハ之ヲ削ル

鐵道船舶郵便法中改正法律案

鐵道船舶郵便法中左ノ通改正ス
 第一條中「私設鐵道條例」ヲ「私設鐵道法又ハ輕便鐵道法」ニ改ム

第八條中「要求シタルトキハ」ノ下ニ「特ニ指定シタル場合ヲ除クノ外」ヲ加フ

第十條第一項ヲ左ノ如ク改ム
 郵便車ノ使用料金ハ其ノ供給スル容積ニ應シ當該鐵道運送業者ノ定メタル最低等級旅客一哩

- 運賃ノ左ノ割合ニ依ル
- 三百立方呎迄 一哩毎ニ 十割以内
- 五百立方呎迄 一哩毎ニ 二十割以内
- 七百立方呎迄 一哩毎ニ 三十割以内

一千立方呎迄 一哩毎ニ 五十割以内

二千立方呎ヲ超過シタルトキハ全容積ニ對シ百立方呎迄ニ付一哩毎ニ六割以内

同條第三項ヲ左ノ如ク改ム

郵便車ニ依ラスシテ郵便物ヲ運送セシムル場合ニ於ケル運送料金ハ當該鐵道運送業者カ其ノ運送方法ニ付定メタル普通貨物運賃ノ最低額ノ半額以内トス

第十四條中「五十圓以上五百圓以下ノ罰金」ヲ「千圓以下ノ罰金」ニ改ム

第十五條中「二十圓以上二百圓以下ノ罰金」ヲ「五百圓以下ノ罰金」ニ改ム

第十六條中「十圓以上」ヲ削ル

第十七條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者カ其ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ過失ニ因リ亡失又ハ毀損シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條中「二十圓以下ノ罰金」ヲ「科料」ニ改ム

第十九條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ノ代表者又ハ代理人其ノ他ノ從業者カ第十四條乃至

第十八條ニ該當スル行爲ヲ爲シタルトキハ各本條ノ刑ニ處ス

本附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

輕便鐵道法第八條ハ之ヲ削ル

電信法中改正法律案

電信法中左ノ通改正ス

第十五條 宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ電信官署ニ於テ之ヲ保管ス其ノ保管開始ノ日ヨリ三十日以内ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第二十二條中「電話及」ヲ「電話、無線電信、無線電話」ニ改ム

第二十七條 不法ニ電信、電話ヲ施設シ又ハ不法ニ施設シタル電信、電話ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條ノ二 主務官署カ命令ノ定ムル所ニ依リ私設ノ電信又ハ電話ノ撤去ヲ命シタル場合

ニ於テ期間内ニ之ヲ撤去セザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

撤去ヲ命セラレタル私設ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者亦同シ

第二十八條 私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニ非スシテ之ヲ使用シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

私設ノ電信又ハ電話ニ依頼シ通信ヲ爲サシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條ノ二 第二十七條、第二十七條ノ二第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十九條 第三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信、電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ鐵道用地、停車場建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ停車場建物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條中「科料」ヲ「三十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ従事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條 不法ニ電信、電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ従事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條中「虛偽ノ電報」ヲ「電信又ハ電話ニ依リ虛偽ノ通信」ニ、「一月以上五年以下ノ重禁錮」ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ヲ「五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ、「輕懲役ヲ七年以下ノ懲役」ニ改メ同條第三項ヲ削ル

第三十四條 削除

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル

第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ従事スル者正當ノ事由ナクシテ通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信若ハ電話ニ依ル通信ヲ障碍シ又ハ之ヲ障碍スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條中「一月以上二年以下ノ重禁錮」ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス」ヲ「三年以下ノ懲

役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第三十九條中「科料」ヲ「十圓以下ノ科料」ニ改ム

第四十條中「五圓以上百圓以下ノ罰金」ヲ「千圓以下ノ罰金」ニ、「所爲」ヲ「行爲」ニ改ム

第四十一條 第二十七條、第二十七條ノ二第二項、第二十八條、第三十一條乃至第三十三條、

第三十五條、第三十七條、第三十八條及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四十二條 削除

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ差出シタル電報ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正法律案

第一條 海底電信線保護萬國聯合條約ニ依ル海底電信線ヲ損壞シテ通信ヲ障礙シ又ハ障礙スヘ

キ危險ヲ生セシメタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ海底電信線ヲ布

設又ハ修繕スルニ付已ムコトヲ得サルニ出テタル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

過失ニ因リ第一項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 自己ノ生命若ハ船舶ヲ保護スル爲又ハ海底電信線ヲ布設若ハ修繕スルニ付已ムコトヲ

得スシテ海底電信線ヲ損壞シタル者ハ直ニ無線電信ニ依リ電信官署又ハ帝國領事館ニ届出ツ

ベシ無線電信ニ依ルコトヲ得サルトキハ最初ニ著船シタル時ヨリ二十四時間内ニ其ノ地ノ電

信官署又ハ帝國領事館ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 海底電信線保護萬國聯合條約第五條第一項乃至第三項又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル

者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 海底電信線保護萬國聯合條約第十條第二項ノ場合ニ於テ公書ノ呈示ヲ拒ミタル者ハ三

百圓以下ノ罰金ニ處ス

暴行又ハ脅迫ヲ以テ前項ノ呈示ヲ拒ミタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長侯爵細川護立 散會ヲ命ス

散會 午後二時五十二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

郵便法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月一日

右特別委員長

侯爵 細川護立

鐵道船舶郵便法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月一日

右特別委員長

侯爵 細川護立

海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月一日

右特別委員長

侯爵 細川護立

貴族院議長公爵徳川家達殿

電信法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月一日

右特別委員長

侯爵 細川護立

貴族院議長公爵徳川家達殿

海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月一日

右特別委員長

侯爵 細川護立

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 侯爵 細川護立印

○委員長侯爵徳川圀順 會計検査院法中改正法律案及行政裁判法中改正法律案ヲ一括シテ問題ニ供ス

○政府委員高橋作衛 會計検査院長及行政裁判所長官ハ國務大臣ト對立ノ地位ヲ有スル重要ナル官職ニシテ從來大審院長ト同一ノ待遇ナリシカ大審院長ハ裁判所構成法改正ノ結果親任官トナリタリ依テ權衡ヲ得ル爲メ會計検査院長及行政裁判所長官ヲ進メテ親任官ト爲サムト欲ス又會計検査院法中改正法律案ニ於テ副検査官二員ヲ減スルハ之ヲ減スルモ事務上何等支障スル所ナキカ故ナリ終ニ行政裁判法中「内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ」ヲ削ルハ法制上ノ形式ヲ一定セムカ爲ナリ

○委員山脇玄 本案ニ於テ會計検査院ノ副検査官二員ヲ減スルハ山本内閣ノ際ニ於ケル行政整理ノ結果ナリヤ

○政府委員高橋作衛 昨年ノ行政整理ノ結果ナリ

○委員山脇玄 行政裁判法中改正法律案ニ於テ「内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ」ヲ削ル理由如何

○政府委員高橋作衛 高等官官等俸給令第二條ニ委任文官ハ總理大臣之ヲ奏薦シ云云トアリ而シテ親任官勅任官及奏任官ヲ奏薦スルニ付テハ行政裁判法中ニ規定スルカ如キ形式ヲ採リタルモ

ノ他ニ之ナシ依テ此ノ際法制ノ形式ヲ統一セムト欲ス

○委員平山成信 親任官ハ勅任官ノ一種ナリヤ又此ノ改正ノ結果從來ノ會計検査院長及行政裁判所長官ハ廢官トナルヤ

○政府委員高橋作衛 法理上ヨリ見レハ然ラムモ政府ハ未具體的ニ研究シ居ラス

○委員子爵野村益三 山本内閣ノ際副検査官十八員ヲ十六員ニ減シタルカ爾來其ノ儘トナリ居レリヤ

○政府委員高橋作衛 今般ノ改正ハ昨年ノ行政整理ノ結果ナリ從來ニ於テ會計検査ノ事務ニ支障ヲナカリシハ勿論今後此ノ改正ノ結果モ亦支障ナシト信ス

○委員長侯爵徳川圀順 質問盡キタルヲ以テ兩案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長侯爵徳川圀順 兩案ハ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午前十時四十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

會計検査院法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二日 貴族院議員 德川 圀 順

右特別委員長

德川 圀 順

貴族院議長公爵德川家達殿

行政裁判法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月二日 貴族院議員 德川 圀 順

右特別委員長

德川 圀 順

貴族院議長公爵德川家達殿

委員 長 侯爵 德川 圀 順

副委員長 侯爵 德川 圀 順

委員 長 侯爵 德川 圀 順

議院法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正五年二月一日議長ノ指名ヲ以テ議院法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

開會 午前十時正

出席委員

同 田 井 忠 亮

同 堀 河 護 麿

同 伊 東 祐 弘

同 有 地 品 之 允

同 倉 富 勇 三 郎

同 柴 田 家 門

同 渡 正 元

同 田 健 治 郎

同 谷 森 眞 男

○大正五年二月七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長及副委員長選舉

委員長 田 健 治 郎

副委員長 谷 森 眞 男

○大正五年二月八日委員會議事錄
委員長 子爵 酒井 忠 亮
副委員長 倉富 勇 三 郎

會 議

第一回 大正五年二月八日

出席委員

副委員長 倉富 勇 三 郎 委員 子爵 堀 河 護 麿

同 子爵 伊 東 祐 弘 同 柴 田 良 家 門

同 男爵 田 健 治 郎 同 谷 森 眞 男

出席政府委員

法制局長官 高 橋 作 衛

開會 午前十時五分

○副委員長倉富勇三郎 開會ヲ宣告ス

(参照) 議院法中改正法律案

議院法中改正法律案

○議院法中左ノ通改正ス

第十七條中「職員」ヲ「職員中判任官以下」ニ改ム

○委員倉富勇三郎 本案ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○政府委員高橋作衛 貴族院及衆議院ノ守衛長ノ地位ヲ進メ奏任官ト爲スハ多年ノ宿題タリシナ

リ既ニ第三十一回帝國議會及昨年ノ特別議會ニ於テ衆議院ハ此ノ問題ヲ解決セムカ爲ニ法律案

ヲ發議若ハ提出シタルニ竟ニ議了セラルルニ至ラザリキ政府ニ於テモ亦其ノ趣意ヲ適當ト認メ

勅令タル貴族院事務局官制並衆議院事務局官制ニ改正ヲ加ヘ以テ此ノ目的ヲ達セムトス然ルニ

議院法第十七條第三項ハ「書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス」ト規定スルヲ以テ

兩院ノ事務局官制ヲ改正シ守衛長ヲ奏任官ト爲スニ於テハ之カ任命ハ書記官長ノ權限内ニ在ル

カ如クニ解セラルルニ至リ妥當ヲ闕クカ故ニ茲ニ「職員」トアルヲ「職員中判任官以下」ニ改メム

トスルモノナリ

○委員柴田家門 政府委員ノ説明ニ依レハ既ニ貴族院及衆議院ノ事務局官制ヲ改正セラレタルカ

如シ果シテ然ルカ又明年度ノ豫算案ニ之カ所要ノ經費ヲ計上セラレタリヤ

○政府委員高橋作衛 未兩院ノ事務局官制ヲ改正セシニハアラス

○委員男爵田健治郎 守衛長ヲ奏任官ト爲スハ年來ノ懸案ニシテ別ニ異議ナキ所ナルモ昨年衆議院ヨリ提出セラレタル法律案ハ議院法第十六條第一項中「書記官數人」ノ下ニ「守衛長一人」ヲ加フルノ改正案ナリシ爲守衛長ハ恰議院ヲ構成スルノ要素ナルカノ如キ疑ヲ生セシメ寧議院法ヲ改正スルノ必要ナキニ非サトノ說ヲ生スルニ至レリ且又當時會期切迫セシ爲同案ハ遂ニ議決セラレルニ至ラザリキ然ルニ今回政府ヨリ提出セラレタル改正案ニ依レハ同案ハ單ニ議院法第十七條中「職員」ヲ「職員中判任官以下」ト改ムルノミニテ守衛長ノ地位ヲ進ムルニハ別ニ勅令タル事務局官制ノ改正ニ依ルノ趣意ニ出ツルモノノ如シ果シテ然リヤ

○政府委員高橋作衛 兩院事務局官制ノ改正ノミニ依リテ守衛長ノ地位ヲ進メ得ルヤ否ニ付テハ昨年ノ議會ニ於テモ議論アリタル所ナルカ政府ハ議院法中第十六條ニ守衛長ナル文字ヲ付加セス單ニ官制ノ改正ノミニテ其ノ地位ヲ高ムルコトニ決シ其ノ結果議院法中必要ノ改正ヲ加ヘムトスルノ主旨ナリ

○委員男爵田健治郎 立案ノ主旨政府ノ陳述スル所ノ如クナラハ本案ハ之ヲ可決スヘキモノト認ム

○委員子爵堀河護麿 本案ニ贊成ス

○委員谷森眞男 昨年衆議院ヨリ提案アリシ際其ノ趣旨ニ對シテハ既ニ本院ノ委員モ同意ヲ表セラレタル所ナリ而シテ本案ハ昨年來ノ懸案ヲ解決スルモノナレハ茲ニ贊成ノ意ヲ表ス

○委員柴田家門 本案ニ贊成ス

○委員子爵伊東祐弘 本案ニ贊成ス

○副委員長倉富勇三郎 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午後一時二十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ

議院法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正五年二月八日

右特別委員副委員長

倉富勇三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 子爵 酒井忠亮印

○委員長 倉富勇三郎印

副委員長

大正五年二月二日議長ノ指名ヲ以テ砂糖消費稅法中改正法律案特別委員會ヲ選定スルコト左ノ如シ

○委員長及副委員長選舉
大正五年二月二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 寺島誠一郎

副委員長 倉富勇三郎印

委員 唐橋在正

委員 牧野忠篤

委員 島津久賢

委員 鄉誠之助

委員 西村亮吉

委員 橋本圭三郎

委員 荒井泰治

委員 美馬儀一郎

砂糖消費稅法中改正法律案特別委員會

委員選舉

大藏省 官

令 林 次 吉

○大正五年二月一日議長ノ指名ヲ以テ砂糖消費稅法中改正法律案特別委員會ヲ選定スルコト左ノ如シ

委員長 寺島誠一郎

副委員長 倉富勇三郎印

委員 唐橋在正

委員 牧野忠篤

委員 島津久賢

委員 鄉誠之助

委員 西村亮吉

委員 橋本圭三郎

委員 荒井泰治

委員 美馬儀一郎

○大正五年二月二日委員及副委員及委員長、寺島誠一郎

委員及副委員及委員

副委員長 子爵 唐橋 在正

會議

第一回 大正五年二月八日

出席委員

委員長 伯爵 寺島誠一郎 副委員長子爵 唐橋 在正

委員 子爵 牧野 忠篤 同 男爵 島津 久賢

同 男爵 郷 誠之助 同 世爵 西村 亮吉

同 同 橋本圭三郎 同 子爵 荒井 泰治

同 美馬儀一郎 同 子爵 源 謙吉

出席政府委員

○大正五年二月二日委員、大藏省參政官、加藤藤之政、之次助

委員及副委員

大藏書記官

今村 次吉

砂糖消費税法中改正法律案特別委員會

○委員長伯爵寺島誠一郎、開會ヲ宣告スルニ、

(參照)

砂糖消費税法中改正法律案

砂糖消費税法中左ノ通改正スルニ、

第一條中「稅關又ハ保稅倉庫」ヲ「又ハ保稅地域」ニ改ム

第四條中「稅關又ハ保稅倉庫」ヲ「又ハ保稅地域」ニ、「殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還付ス」

第五條「政府ノ承認ヲ受ケ外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖

蜜又ハ糖水ニハ消費稅ヲ課セス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セ

シムルコトヲ得

第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月以内ニ外國ニ輸出セラレタルコトノ證明ナ

キモノハ内地消費ニ供セラレタルモノト看做シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ム

コトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラ

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス
第六條 第四條第一項但書、前條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外消費稅納付
前ニ於テハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第七條 第四條第一項但書、第五條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外砂糖、糖
蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ
承認ヲ受ケスシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス
命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ消費稅納付前砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出
シタル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス
前項ニ依リ移出シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ其ノ移出先ニ移入セラレサルトキハ移入者
ヨリ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニ
シテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條ノ一中「稅關又ハ保稅倉庫」ヲ「又ハ保稅地域」ニ、「災害」ヲ「天災其ノ他已ムコトヲ得
サル事由」ニ、「本條ノ場合ニ之ヲ適用ス」ヲ「第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス」ニ改ム

第十一條ノ二 政府ノ承認ヲ受ケ飲食スヘカラサル處置ヲ施シ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラ
ルル糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス

第十二條 政府ノ承認ヲ受ケ消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ以テ製造スル糖水ニ付テハ本法ヲ適
用セシメ、
第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵

收ス但シ稍費稅六圓未滿ナルトキハ罰金額ハ二十圓トス

一 第六條又ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
二 政府ニ申告セシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタルトキ

三 前二號ニ該當スル場合ヲ除クノ外詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費稅ヲ遁脱シ又ハ遁脱
本條ノヲ圖リタルトキ

第十三條ノ二 第八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三十圓以上ノ料料ニ處
ス但シ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トスル物品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

第十四條及第十五條中「三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ料料」ヲ「三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以
上ノ料料」ニ改ム

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用非ス。三圓以上十七條ノ二 本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル。附三附ノ則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

散會 午前十一時十三分
 (附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ
 砂糖消費税法中改正法律案
 右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也
 大正五年二月八日
 右特別委員長
 伯爵寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 寺島誠一郎印

副委員長 子爵 唐橋敷在 正印

○大正五年二月三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	男爵	藤井包總
副委員長		石渡敏一

第一回 大正五年二月三日

出席委員

委員長	男爵	藤井包總	副委員長	男爵	石渡敏一
委員	伯爵	川村鐵太郎	同	子爵	森口兼清
同	男爵	原口兼濟	同	男爵	梨羽時起
同	男爵	中溝德太郎	同	男爵	川林兼太郎

特選出席政府委員

○大正五年二月一日閣議ノ議決ニ依リ開會三十外務省參政官

委員選舉

外務省副參政官

大隈 信常

開會三十開會 午前十時五十五分

○委員長男爵藤井包總 開會ヲ宣告ス

(參照)

明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案

第一條 明治三十七八年戰役ノ際陸軍徵發内命ニ基キ航行中敵艦ノ爲損害ヲ被リタル船舶又ハ

其ノ積荷ノ所有者ニ對シテハ本法ニ依リ救恤金ヲ下付ス

第二條 前條ノ救恤金ハ六萬圓以内トス

第三條 本法ニ依リ救恤金ヲ受ケムトスル者ハ大正五年七月三十一日迄ニ申請スヘシ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○委員長男爵藤井包總 筆記ノ中止ヲ命ス

(筆記中止)

○委員長男爵藤井包總 散會ヲ命ス

散會 午前十一時十二分

(附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

○委員長 藤井 包

副委員長

石渡 敏一印

○委員 藤井 包

(附記)

○委員 藤井 包

○委員 藤井 包

○委員 藤井 包

○委員 藤井 包

○委員 藤井 包

○委員 藤井 包

○委員 藤井 包

○委員 藤井 包

○委員 藤井 包

○委員 藤井 包

家祿賞典祿處分ニ關スル法律案特別委員會

沒祿處分ヲ受ケタル者ニ對スル家祿賞典祿處分ニ關スル法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議録ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正五年二月九日議長ノ指名ヲ以テ家祿賞典祿處分ニ關スル法律案、沒祿處分ヲ受ケタル者ニ對スル家祿賞典祿處分ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

子爵	前田 利定
男爵	黒岡 帶刀
男爵	北島 齊孝
男爵	高橋 是清
男爵	黒田 長和
男爵	藤堂 高成
男爵	中島 永元
鎌田 榮吉	

委員長及副委員長選舉

○大正五年二月十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	子爵	前田利定
副委員長	男爵	黒岡帶刀

會議

第一回 大正五年二月二十一日

出席委員

委員長	子爵	前田利定	副委員長	男爵	黒岡帶刀
委員	男爵	北島齊孝	委員	男爵	高橋是清
委員	男爵	黒田長和	委員	男爵	藤堂高成
委員	男爵	島永元	委員	男爵	鎌田榮吉
出席政府委員	正	堀	出席政府委員	正	堀

大藏省理財局長ニ出テ、野勝之助

午後一時十九分

○委員長子爵前田利定

(參照)

家祿賞典祿處分ニ關スル法律案

第一條 明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法第一條及第二條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ

其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ但シ大正五年十二月三十一日

迄ニ願出サルトキハ本法ノ給與ヲ受クルコトヲ得ス

第二條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取リタル

日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三條 明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法ニ依リ願出ヲ爲シタル者ニシテ明治四十二

年法律第二十一號第二條ノ期限内ニ出訴セサル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判

所ニ出訴スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

沒祿處分ヲ受ケタル者ニ對スル家祿賞典祿處分ニ關スル法律案

第一條 明治三年九月十日太政官布告藩制施行ヨリ同九年八月太政官第百八號布告實施迄ノ間

ニ於テ國事ニ關スル犯罪ノ爲家祿賞典祿ヲ沒收セラレタル者及其ノ家名承繼人ニシテ明治二

十七年法律第二十號施行ノ際其ノ沒收セラレタル當時ノ祿高ニ對スル全部ノ給與ヲ受ケサル

者若ハ相當額ノ給與ニ不足アル者ハ明治三十年法律第五十號家祿賞典祿處分法ヲ準用シ同法

ニ依リ發行スル公債證書ヲ以テ之ヲ給與ス

第二條 前條ノ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ

地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツヘシ

第三條 前條ノ願出ニ對シ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ指令ヲ受取リタル

日ヨリ六箇月以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四條 明治二十七年法律第二十號ニ依リ給與處分ヲ受ケタル者ニシテ明治三十年法律第五十

號家祿賞典祿處分法第四條ノ願出ヲ爲シ其ノ處分ニ對シ明治四十二年法律第二十一號ニ依リ

行政裁判所ニ出訴シ其ノ訴訟繼續中ノモノハ本法第三條ニ依リ出訴シタルモノト看做ス

○委員長 附則

○委 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長子爵前田利定 散會ヲ命ス

出散會 午後二時二十七分

第二回 大正五年二月二十四日

出席委員

委員長 子爵 前田 利定

委員 男爵 北 島 齊 孝

出同委員 男爵 黑 田 長 和

同 同 大正五年二月二十四日 中正 島 永 元

出席政府委員 三和十八

○委員長 附則

○委 開會 午後一時二十二分

大藏省理財局長

神野勝之助

副委員長

同委員長

同委員長

同委員長

同委員長

大藏省理財局長

神野勝之助

○委員長子爵前田利定 開會ヲ宣告ス

○委員長子爵前田利定 散會ヲ命ス

散會 午後三時十八分

第三回 大正五年二月二十五日

出席委員

委員長 子爵 前田 利定 副委員長 黑岡 帶刀

委員 男爵 北島 齊孝 同委員 男爵 黑田 長和

同委員 男爵 藤堂 高成 同委員 中島 永元

第二回 大正五年二月二十二日 兼田 榮吉 堀 正一

出席政府委員

○委員長子爵前田利定 大藏省理財局長 神野勝之助

開會 午前十時二十二分

○委員長子爵前田利定 開會ヲ宣告ス

○委員長子爵前田利定 休憩ヲ命ス

休憩 午前十時二十三分

開會 午前十時三十分

○副委員長黑岡帶刀 開會ヲ宣告ス

○副委員長黑岡帶刀 散會ヲ命ス

散會 午前十一時十七分

(附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長	子爵	前田	利定
副委員長		黑岡	帶刀

○委員長 山田 清三
 ○副委員長 吉田 清風
 ○委員 柳原 義光
 ○委員 吉田 清風
 ○委員 大給 田近孝
 ○委員 小野 田元熙
 ○委員 江木 千之
 ○委員 千秋 季隆
 ○委員 山田 春三
 ○委員 杉田 定二
 ○委員 植竹 三右衛門

○委員長 山田 清三
 ○副委員長 吉田 清風
 ○委員 柳原 義光
 ○委員 吉田 清風
 ○委員 大給 田近孝
 ○委員 小野 田元熙
 ○委員 江木 千之
 ○委員 千秋 季隆
 ○委員 山田 春三
 ○委員 杉田 定二
 ○委員 植竹 三右衛門

衆議院議員選舉法中改正法律案特別委員會

委員選舉

內務省庶務課員

郵政省庶務課員

○大正五年二月九日議長ノ指名ヲ以テ衆議院議員選舉法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

○委員長 柳原 義光
 ○副委員長 吉田 清風
 ○委員 大給 田近孝
 ○委員 小野 田元熙
 ○委員 江木 千之
 ○委員 千秋 季隆
 ○委員 山田 春三
 ○委員 杉田 定二
 ○委員 植竹 三右衛門

○委員長 柳原 義光
 ○副委員長 吉田 清風
 ○委員 大給 田近孝
 ○委員 小野 田元熙
 ○委員 江木 千之
 ○委員 千秋 季隆
 ○委員 山田 春三
 ○委員 杉田 定二
 ○委員 植竹 三右衛門

○大正五年二月十五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 柳原三義光
副委員長 江木千之

會議

第一回 大正五年二月十五日

出席委員

委員長	伯爵	柳原	義光	副委員長	江木	千之
委員	子爵	吉田	清風	同	小野	田元
同	男爵	千秋	季隆	同	杉田	定一
同		植竹	三右衛門	同	美次	

出席政府委員

○大正五年二月十五日 衆議院議員選舉法中改正法律案特別委員會

委員數

內務省地方局長

渡邊勝三郎

○委員長伯爵柳原義光 開會ヲ宣告ス

(參照)

衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法別表中左ノ通改正ス

神奈川縣橫濱市二人ノ次ニ

橫須賀市 一人

長崎縣長崎市一人ノ次ニ

佐世保市 一人

新潟縣新潟市一人ノ次ニ

長岡市 一人

高岡市一人ノ次ニ

三重縣四日市市一人ノ次ニ

宇治山田市 一人

愛知縣名古屋市二人ノ次ニ

衆議院議員選舉法中改正法律案特別委員會

豊橋市 一人
 静岡縣静岡市 一人ノ次ニ
 濱松市 一人
 長野縣長野市 一人ノ次ニ
 松本市 一人
 福島縣若松市 一人ノ次ニ
 福島市 一人
 廣島縣廣島市 一人ノ次ニ
 吳市 一人
 福岡縣小倉市 一人ノ次ニ
 若松市 一人
 大分縣 一人
 大分市 一人

大分縣

大分市 一人

郡 六人

北海道廳小樽區 一人ノ次ニ

旭川區 一人

ヲ加フ

沖繩縣

那覇區 一人

首里區 一人

島尻郡 二人

中頭郡 二人

國頭郡 二人

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

○委員伯爵柳原義光 本案ニ對シ政府委員ノ意見ヲ陳述アラムコトヲ求ム

○政府委員藤澤幾之輔 本案ハ衆議院ノ提出ニ係リ其ノ要旨ハ從來獨立ノ選舉區タラサル市區ヲ

獨立選舉區タラシメムト欲スルニ在リ政府ハ夙ニ衆議院議員選舉法ノ改正ヲ企ツル所アリ而シテ同法ハ憲法附屬ノ法律ナルカ故ニ屢之カ改正ヲ試ミルハ宜シカラスト認メ慎重審議ノ上改正ヲ行ハムト欲シ來年度ノ豫算案ニ之カ調査會設置ニ關スル經費ヲ計上シ既ニ帝國議會ノ協贊ヲ經タリ本案ニ付テハ政府ハ衆議院ニ於テ之等ノ市區ヲ獨立ノ選舉區ト爲スニ付テハ異議ナキモ尙慎重ナル調査ヲ遂ケタル後ニ立案スルノ希望ヲ有スル旨ヲ開陳シタレトモ同院ハ本案ヲ可決セリ既ニ一院ニ於テ可決セラレタル以上ハ政府ニ於テハ元來本案ノ趣旨其モノニ反對セサルヲ以テ若貴族院ニ於テ本案ニ異議ナクハ此ノ際敢テ反對セサルヘシ而シテ本案ノ趣旨ニ付テハ會テ原敬氏ノ內務大臣タリシ時提出セラレタル法律案ニ包含セラレ當時貴族院ニ於テハ其ノ中高田市、若松市、大分市及北海道旭川區ヲ除クノ外他ノ市區ヲ獨立選舉區ト爲スニ付テハ異議ナカリシナリ

○委員江木千之 政府ハ本案ニ對シ反對セサルヤ

○政府委員藤澤幾之輔 然リ既ニ前述ノ如ク大正五年度ノ總豫算案ニ於テ既ニ之カ調査ニ必要ナル經費ヲ計上シアリ該調査會ニ於テハ本案ノ目的トスル事項ノ外他ニ調査ヲ要スル點ナキニ非サルモ本來之等市區ヲ獨立選舉區ト爲スコトニ付テハ政府ハ固ヨリ不同意ナキナリ貴族院ニシ

○テ本案ニ同意セラレルアラハ政府モ之ニ從フヘシ

○委員江木千之 兩院ヲ通過シタル法律案ニ對シテハ政府ハ議院ノ意思ヲ尊重スルハ當然ナリ本案ノ如キ改正案ニ對シテハ會テ原內務大臣ノ時政府ト本院トノ間ニ選舉區ノ大小ニ付意見合ハスシテ已ミタリ爾後二回斯ノ如キ法律案提出セラレタルモ何レモ本院ニ於テ議了セラレルニ至ラス今回復衆議院ヨリ提案セラレルニ至レリ而シテ過日本案ニ對シ衆議院ニ於テ政府委員ノ陳述セラレシ意見ニ依レハ此ノ際斯カル改正アルハ宜シカラスト謂フニ在リシカ如シ此ノ點ニ關シ政府ノ意見變更セラレタル理由如何又衆議院議員ノ定員ハ四百五十名以内ナリ原內務大臣カ衆議院議員選舉法改正案ヲ提出シタル當時ニ在リテハ此ノ定員ニ餘裕アリタリ然ルニ今日ノ統計ニ依レハ人口増加ノ結果選出スヘキ議員ノ數ニ關シ市區ノミナラス郡部ニ互リ齊シク改正ヲ施スノ必要ヲ生シタリ故ニ此ノ會期ニ於テ單ニ市區ノミニ付改正ヲ斷行セムコトハ躊躇セサルヘカラス加之衆議院議員選舉法改正ノ問題ハ當然選舉資格ノ問題及選舉區劃方ノ問題ニ迄及ハサルヘカラス而シテ人口ノ増加著シキ爲小ナル市區ノ如キハ却テ獨立選舉區タルノ資格ヲ失ハサルヘカラスアルモノアルニ至レリ從テ本法ノ改正ニ際シテハ廣ク市區ト郡部トノ關係ヲモ考慮セサルヘカラスアルハ勿論ニ非スヤ

○政府委員藤澤幾之輔 現行法施行ノ後ニ於テ市又ハ區ト爲リタルモノニシテ未獨立ノ選舉區ト爲ラサルモノアリ之等ノ市區ヲ獨立ノ選舉區ト爲スハ政府ノ確定的希望ナリ既ニ一院ノ意思亦玆ニ在リトセハ政府ハ特ニ之ニ反對スルノ理由ナシト信ス又人口増加ト議員ノ數トニ就テ述フレハ郡部ニ在リテハ人口十三萬ニ付議員一名ヲ出スノ原則ニ依リ端數切捨法ニ依レハ議員ノ數四百三十二名ニ止マルモ四捨五入法ニ依レハ四百五十八名トナリ定員ヲ超過スルコト八名ナリ而シテ本案ニ掲クル市區中議員二人以上ヲ選出シ得ルノ地位ニ在ルモノナシ政府ニテハ尙調査ノ上立案スルコトヲ希望スルモ此ノ際本案ニ付テハ反對セス

○委員小野田元熙 本案ニ於テ大分縣郡部六人トアルハ如何又沖繩縣ハ郡區ヲ合計シテ三人トナルヤ

○政府委員渡邊勝三郎 現行法ニ依レハ大分縣六人トアリ然ルニ本案ハ大分市ヲ獨立ノ選舉區ト爲シ議員一人ヲ選出セシメ郡部ヨリ六人ヲ選出セシムル趣旨ナリ又沖繩縣ニ付テハ現行法ニ於テハ二人ナルモ那覇市ハ人口三萬以上ナルヲ以テ之ヲ獨立ノ選舉區ト爲サムト欲スルモノナリ

○委員小野田元熙 郡部ニ於テハ人口十三萬ヲ増加スル毎ニ議員一人ヲ増スノ制ナリヤ

○政府委員渡邊勝三郎 現行法ニ於ケル別表ハ明治三十年ノ制定ニ係リ明治三十五年改正ヲ加ヘ

ラレタルモノニシテ郡部ノ人口十三萬ニ對シ議員一人ヲ出スノ割合ナリ然ルニ其ノ制定ノ時ヨリ今日ニ至ル迄ニ約一千萬ノ人口ヲ増加セリ而シテ現在ノ議員總數ハ三百八十七名ナリ四百五

○委員小野田元熙 別表ハ少クトモ十箇年間ハ之ヲ更正セストノコトナルカ果シテ然ルヤ

○政府委員渡邊勝三郎 然リ然レトモ明治三十五年改正ノ際ヨリ明治四十五年ニ至リ既ニ其ノ期間ハ經過セリ

○委員小野田元熙 人口増加ノ結果市ヲ新ニ獨立選舉區ト爲スト同時ニ郡部ニ於テモ定員ヲ増加スル必要アルニ非スヤ

○政府委員渡邊勝三郎 然リ本案ノ審査ニ際シ衆議院ニ於テモ同様ノ説出テ市區及郡部ニ互リ同時ニ改正ヲ行フノ穩當ナルヲ主張シタル者アリシモ斯クテハ却テ問題ヲ復雜紛糾セシメ改正ノ成立セサル虞アリ故ニ分割シテ順次改正スルニ如カスト爲シ本案ノ提出ヲ見ルニ至リシナリ

○委員江木千之 政府ノ本案ニ對スル主張カ衆議院ニ於ケル陳述ト相反セルハ奇怪ナリ且ツヤ一般ニ人口ノ増加セル今日ニ於テ議員ノ數ニ付郡部ヲ從來ノ儘ト爲シ市區ノミノ改正ヲ斷行セムト欲スルハ了解ニ苦シム所ナリ況ヤ憲法附帶ノ法律タル衆議院議員選舉法ノ改正ヲ企ツルニ當リテハ政府ハ先ツ宜シク樞密院ノ諮詢ヲ經サルヘカラサルニ於テヌヤ又市ハ今後ニ於テモ生ス

ヘク或ハ既ニ獨立ノ選舉區タリシモノニテ其ノ資格ヲ消滅セルモノニ(九龜市外一箇所)アリ議員總數ノ最高限度ヲ四百五十人トスル以上ハ尙調査ノ上考慮ヲ要スヘシ是等ノ疑問ハ他日内務大臣ノ出席ヲ要求シテ質サムト欲ス又本案ノ審査ニ必要ナル統計材料アラハ提示セラレムコトヲ望ム

○政府委員藤澤幾之輔 内務大臣出席要求ノ件並統計材料提示ノ件ハ之ヲ了承セリ尙東京府ニテハ現在市ヨリ十一名郡部ヨリ五名ノ議員ヲ選出スルコトトナリ居ルモ大正二年ノ人口ニ依レハ市ハ十五名郡部ハ八名ヲ出シ得ル程度ニ達セリ

○委員江木千之 斯カル姑息ノ案ヲ以テ憲法附帶ノ法律ヲ改正セムトスルハ不可ナリ過般衆議院議員選舉法改正調査會設置ノ經費ヲ計上セル豫算案通過シタル故吾人ハ合理的ノ改正アラムコトヲ期待ス然ルニ該經費ノ通過後間モナキ今日ニ當リ變説シテ本案ニ賛成スルカ如キハ堂堂タル政府ヲ採ルヘキ所ニ非スト信ス
○政府委員渡邊勝三郎 人口ニ對スル議員配當數ハ郡部ハ人口十三萬ニ付一人ノ割合ナリ而シテ四拾五入法ヲ採ラハ議員ノ定員最高限タル四百五十人ヲ超過スルコトトナル而シテ此ノ四百五十ナル議員數ハ之ヲ尊重スヘキモノニテ無限ニ増加スヘキモノニ非ス從テ郡部ニ關シテハ四拾

五入法ヲ廢シ切捨法ヲ採用スヘキヤ否ヤハ尙考究ヲ要スヘキナリ然レトモ市區ニ關シテハ人口三萬以上ノモノヨリ議員一人ヲ出スヘキハ既定ノコトニ屬シ何人モ異論ナキ所ナリ

○委員小野田元瀨 他日内務大臣ノ出席ヲ要求シテ質疑ヲ爲シタル上本案ノ可否ヲ決セラレムコトヲ望ム

○委員長伯爵柳原義光 散會ヲ命ス

散會 午後二時

(附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長 伯爵 柳原義光印
副委員長 江木千之印

○大正五年二月十六日委員及副委員長及委員並其
副委員長 伯爵 寺島誠一郎 岡部長職

會議

第一回 大正五年二月十六日

出席委員

副委員長 伯爵 寺島誠一郎 委員 子爵 松平乘長

同 平山成信 同 男爵 島津義隼 彦

同 有松英義 同 平山對

出席國務大臣 內務大臣 子爵 木曾喜徳郎

出席政府委員 前 藤澤幾之輔

委員 公使館一等書記官 藤田敏郎

○大正五年二月十二日委員及副委員長及委員並其
副委員長 伯爵 寺島誠一郎 岡部長職

出席主務官 司法省法務局長 豐島直通

出席副主務官 內務省參事官 前田多門

第二回開會 午前十時三十分

○副委員長 伯爵 寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○副委員長 伯爵 寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

第十八條 日本人カ外國人ノ妻ト爲リ夫ノ國籍ヲ取得シタルトキハ日本ノ國籍ヲ失フ

第二十條ノ二 外國ニ於テ生マレタルニ因リテ其國ノ國籍ヲ取得シタル日本人カ其國ニ住所ヲ

有スルトキハ內務大臣ノ許可ヲ得テ日本ノ國籍ノ離脱ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ノ申請ハ國籍ノ離脱ヲ爲ス者カ十五年未滿ナルトキハ法定代理人ヨリ之ヲ爲シ滿
十五年以上ノ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ要

繼父、繼母、嫡母又ハ後見人カ前項ノ申請又ハ同意ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要
 ス正平以上ノ未滿年者又ハ禁治產者ヤハ其ノ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要
 國籍ノ離脱ヲ爲シタル者ハ日本ノ國籍ヲ失フ正平未滿年者ハ其ノ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要
 第二十四條中「前五條」ヲ「前六條」ニ、「前六條」ヲ「前七條」ニ改ムイマシ
 第二十六條中「第二十條」ノ下ニ、「第二十條ノ二」ヲ加フ國籍ノ取得ハ日本ノ國籍ヲ失フ
 第十八附則 則 本國ノ人ハ其ノ國籍ヲ失フ日本ノ國籍ヲ得ルコトヲ要ス
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 (附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○副委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

○散會 午前十一時二十八分 宣書ス

第二回 大正五年二月十九日

出席委員

委員長 子爵 岡部長職
 副委員長 伯爵 寺島誠一郎
 委員 子爵 松平乘長
 委員 子爵 平山成信

大同正平二男爵十四關 義 臣 同 有特別委員倉知鐵吉

出席政府委員 有特別委員松山英 義

外務省副參政官 大隈信常

內務省參政官 藤澤幾之輔

外務省參事官 田中 都吉

內務省參事官 前田 多門

內務省參事官 藤澤幾之輔

內務省參事官 前田 多門

內務省參事官 藤澤幾之輔

內務省參事官 前田 多門

內務省參事官 藤澤幾之輔

內務省參事官 前田 多門

內務省參事官 藤澤幾之輔

內務省參事官 前田 多門